

**平成29年度大学教育再生戦略推進費
「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材
(がんプロフェッショナル)」養成プラン」
申請書**

【様式1】

事業の構想等

申請担当大学名 (連携大学名)	岡山大学 (愛媛大学、岡山大学、香川大学、川崎医科大学、高知大学、高知県立大学、徳島大学、徳島文理大学、広島大学、松山大学、山口大学) 計11大学
事業名 (全角20字以内)	全人的医療を行う高度がん専門医療人養成

1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵A4横1枚)を末尾に添付すること。

(1) 事業の全体構想

①事業の概要等

<p>〈テーマに関する課題〉 我が国の急速な高齢化とがん患者の増加は、ゲノム医療、標的治療、免疫療法等のがん医療の急速な進歩に対応する卓越したがん治療の知識を持つ専門職を必要とする。その一方で、小児、AYAから高齢者までの年代特有の問題や、社会・経済・精神をはじめとする全人的な苦痛への対応は、ますます重要性を増している。がん患者の求める全人的医療の実践可能な卓越した専門医療人の育成が急務である。</p>
<p>〈事業の概要〉(400字以内厳守) 本事業は、高度ながん治療の専門性を有すると同時に全人的医療を高度なレベルで実践できる人材を育成する中国・四国地方全域の大学院・がん診療拠点病院が連携した教育プログラムである。各施設の特徴と患者会との連携を生かしゲノム医療・高齢者・小児・希少がん・全人的医療の領域において高度なレベルで標準化された共通コアおよびeラーニングによる域内統一カリキュラムを設計し、評価修正を行い、大学間連携と拠点間連携による大学、分野、職種を越えた専門職教育を行う。英語教育と海外先進施設との連携により国際的に活躍する人材の養成とFD研修、地域医療機関との連携により在宅・緩和・高齢者がん医療に貢献する専門医療人の養成を行い、CNSの高齢者・在宅医療リカレント教育と在宅看護・口腔ケア・栄養専門職の人材育成を行う。地域のがん啓発、教育を行ないソーシャルキャピタルを形成するとともにミャンマー、台湾での人材育成にも貢献する。</p>

②大学・学部等の教育理念・使命（ミッション）・人材養成目的との関係

医療の進歩に伴いがん患者の寿命は飛躍的に延びてきているが、このような高水準な医療の維持には各領域医療者が高度に専門化する必要がある。しかしながら、このような専門化は、一方ががんそのものだけでなく社会的・経済的問題など様々な問題を含有する一人のがん患者に対し、全人的に対応することを困難とする。医療者教育の要である大学では、高度な専門性を有しながら、同時に他領域の専門家との連携に通じ、全人的医療が実践できる人材の養成が重要なミッションであると考えられる。

③新規性・独創性

本プログラムにおける新規性・独創性は、高度な専門性・全人的医療の両面に通じた人材育成を行うことである。高度な専門性とはゲノム医療・年代別医療・遺伝子カウンセリングなど細分化された各領域に精通した能力であり、全人的医療とは患者や家族の社会・身体・精神・スピリチュアルペインをケアする医療である。このように多種多様な専門性を有し、かつ全人的医療を実践する医療者を養成することで、将来ますます多様化するニーズに対し、それぞれ必要な人材が連携して対応するネットワークを形成できる。

④社会との関係（がん患者及びその家族等の視点）

多彩なニーズに対応するがん専門医療人の育成のために、がん患者やその家族の参画は不可欠である。本プランでは、NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会などの患者会は、患者や家族の実際のニーズについて、がんプロ学生に講義を行うとともにカリキュラムの設計に携わる。患者・家族の思いを教育に取り入れることにより、がん治療と同時に全人的ケアを行うことの重要性を教育する。さらに患者意志に基づく高齢者医療、在宅医療、緩和医療の実践と就労支援、社会資源の利用を促進する。

⑤キャリア教育・キャリア形成支援(男女共同参画,働きやすい職場環境,勤務継続・復帰支援等も含む。)

中国四国の既存の男女参画・キャリア支援プロジェクトとの共同で、がんプロ学生の就職支援および各種セミナーを行う。がん専門医療従事者に対して在宅医療や高齢者医療を教育し、より幅広いがん診療を行うことを支援する。出産・育児などで休職しているがん専門医療従事者に対して、がん診療に関わる手技などのシミュレーターを用いた復職支援プログラムを行う。がん専門看護師に対し、小児がん看護、在宅・高齢者看護のリカレント教育を行い知識を深める。在宅看護研修を行い、多様な就労形態を支援する。

⑥達成目標・評価指標

- ・教育プログラム・コースの立ち上げ時期：平成29年6月
- ・教育プログラム・コースの実施数：42
- ・教育プログラム・コースの履修者数(11大学合計)：医師コース 平成29年度41名、平成30年度43名、平成31年度41名、平成32年度43名、平成33年度40名、メディカルスタッフコース 平成29年度23名、平成30年度29名、平成31年度28名、平成32年度29名、平成33年度28名、インテンシブコース 平成29年度905名、平成30年度1,027名、平成31年度1,027名、平成32年度1,027名、平成33年度1,027名
- ・本事業に係るシンポジウムやセミナー等の実施数：平成29年度44回3,053名(11大学)、平成30年度48回3,373名(11大学)、平成31年度48回3,373名(11大学)、平成32年度48回3,373名(11大学)、平成33年度48回3,373名(11大学)
- ・がん医療人材拠点間の枠組を越えた協力体制構築：全国がんプロe-learningクラウドへの参加、他拠点との講師相互派遣・演習や講義の合同実施
- ・指導者養成プログラム(FD)実施：国内・海外先進施設へのFD研修派遣者数 延べ20名以上/年
- ・アジア地域とのFD研修交流(国際貢献)：アジア地域からの医療人受入 1名以上/年
- ・チーム医療合同演習実施：学生・教員参加者数 50名以上/年(全連携大学参加)
- ・eポートフォリオを活用した指導：専門資格取得支援 3名以上/年

(2) 教育プログラム・コース → 【様式2】

2. 事業の実現可能性

(1) 事業の運営体制

①事業の実施体制

11大学のコーディネーターが協議会を形成し運営する。岡山大学に事務局を置き、カリキュラム運営委員会により全体の事業が計画・実行される。各幹事校が19のWGを統括・他大学を指導し、当該事業の計画を遂行する。情報は広報委員会により速やかに伝達される。総合評価委員会が評価・改善を行う。さらに治験推進と病院連携の委員会を置く。全国がんプロe-learningクラウドに参加し、カリキュラムの充実を図る。

②事業の評価体制

総合評価委員会を置き、定期的にプログラムを評価する。年1回の外部評価委員会は、各専門分野の有識者と患者代表からなり、実績と問題点を検証する。結果は広報委員会で報告書を作成し、これに基づきカリキュラム企画委員会で改善策を検討・実行する。内部評価委員会は、各WGで定期的に事業の検証を行い、カリキュラム企画委員会に報告する。

③事業の連携体制（連携大学、自治体、地域医療機関、民間企業等との役割分担や連携のメリット等）

中国四国の広域11大学の連携により、地域性、得意分野に特徴のある組織構築が可能となる。各大学は得意分野のWGの幹事校となりカリキュラム、事業計画を設計し他大学に提供する。また、地域の医師会や患者会と連携し本事業に関する講演会を実施、各自治体との連携により市民公開講座などを開催する。また、全国がんプロe-learningクラウドとの連携で、同コンテンツを大学院コースの一部として含める。大阪大学拠点とは拠点間の連携を行い合同演習、講義等を合同で行う。

(2) 取組の継続・事業成果の普及に関する構想等

①取組の継続に関する構想

各大学は得意分野のWGを掌握し、カリキュラムの運営に責任を持つ。大学院のコースワークは、補助期間終了後もコンソーシアムを継続維持し、eラーニング、単位互換、指導者の相互乗り入れ等の事業を継続し、発展的にがん専門人の養成を行う予定である。eラーニング、eポートフォリオ等の事業は各大学の自己資金で継続する。

②事業成果の普及に関する計画

がんプロ修了者が中国四国で臨床実践することにより、高度に標準化された理想的ながん治療の均霑化と普及が達成される。在宅看護／高齢者医療／口腔ケアインテンシブコース修了者により、それぞれの分野で普及が期待される。各大学では様々な講演会、小中高校生へのがん教育を行うことにより、社会に対する啓発を行う。HPでは様々な情報を発信し、がんプロの成果を社会に知らしめる。がんプロの教育システムをミャンマー、台湾等の医療者と共有することにより、がんプロ事業の成果は国際的に普及する。全国がんプロ協議会を通じ、我々の開発した人材養成モデルを全国に普及させる。

3. 年度別の計画

(1) 年度別の計画

29年度	<p>各種委員会の開催</p> <p>① 6、11月 コンソーシアム協議会、運営委員会を開催する。6-3月 運営に係る人員、指導に係る人員を雇用し、事務局体制の充実を図る。</p> <p>② 6、11月 カリキュラム企画運営委員会、各種WG委員会を開催する。</p> <p>③ 6、11月 臨床治験推進委員会を行う。</p> <p>④ 6月 広報委員会を開催する。6-3月 定期的に広報誌を作成・送付し、事業の継続的広報を図る。</p> <p>⑤ 7月 連携病院長会議を実施する。</p> <p>⑥ 2月 総合評価委員会を開催して本プログラムの評価を行う。養成人数、業績、コンテンツの評価、FDの評価、費用対効果等について外部委員による評価を受ける。</p> <p>教育環境整備</p> <p>⑦ 6-3月 eラーニングのコンテンツを蓄積する。</p> <p>⑧ 6-3月 全国がんプロe-learningクラウドへ参加し、コンテンツを蓄積する。</p> <p>⑨ 6-3月 eポートフォリオを運用し、専門資格の取得支援を行う。</p> <p>⑩ 全国のがんプロ拠点で緩和医療の教育体制の充実を図る。</p> <p>大学院教育担当教員の研修（FD）</p> <p>⑪ 6-3月 国内・海外先進施設へ教員をFD研修に派遣する。</p> <p>⑫ 2月 FD研修者による報告会をかねた研修会を開催する。</p> <p>⑬ 各大学の指導教員のFDを共同で行う。</p> <p>⑭ 8月 チーム医療合同演習を開催する。</p> <p>大学院カリキュラムの実施並びに各種講習会の開催</p> <p>⑮ 6-3月 大学院カリキュラムを実施するとともに、コンソーシアム内の各拠点病院と連携して定期的に講習会を行う。他がんプロ拠点との交流も企画する。</p> <p>⑯ 6-3月 海外先進施設から講師を招聘してがん治療の講習会を開催する。</p> <p>⑰ 11月 在宅訪問看護研修セミナーのプログラムを完成する。</p> <p>⑱ 12月 CNSのリカレント教育を行う。</p> <p>がん専門医療人研修派遣</p> <p>⑲ 6-3月 国内先進施設への専門医療人の派遣を行う。</p> <p>⑳ 6-3月 国内・海外での研究会に参加し情報収集を行う。</p> <p>啓発活動</p> <p>㉑ 6-3月 本プランの国民への周知を図るための公開講演会を行う。</p> <p>㉒ 6-3月 がんプロ指導教員が小中高校生を対象にした医療教育授業を行うとともに、学校教員を対象にしたFDを行う。</p> <p>㉓ アジアからのFD研修を受け入れ、がん治療のチーム医療についての交流を行う。</p>
30年度	平成29年度の事業を継続して行う。ただし、⑰は11月 在宅訪問看護研修セミナーを行う。
31年度	平成29年度の事業を継続して行う。ただし、⑰は11月 在宅訪問看護研修セミナーを行う。 中間評価として外部評価委員会を開催し報告書を作成する。
32年度	平成29年度の事業を継続して行う。ただし、⑰は11月 在宅訪問看護研修セミナーを行う。
33年度	平成29年度の事業を継続して行う。ただし、本年度は⑱の派遣事業は行わない。⑰は11月 在宅訪問看護研修セミナーを行う。 最終評価として外部評価委員会を開催し報告書を作成する。

34年度 [補助期間 終了後]	平成29年度の事業を継続して行う。特にeラーニングシステムやeポートフォリオシステム、全国がんプロe-learningクラウドは、各大学の共同負担により可能な限り継続とする。
-----------------------	---

教育プログラム・コースの概要

大学名等	愛媛大学大学院医学研究科医学専攻
教育プログラム・コース名	臨床腫瘍学教育課程がん専門医養成コース（博士課程）
対象者	愛媛大学大学院医学研究科医学専攻大学院生
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	患者を集学的に診療出来る人材、即ち、診断・治療から終末期にかけて、また、小児・AYA世代から高齢者にかけて、肉体的・精神的に診療できるチーム医療の担い手・リーダーとなるべき医療人を養成する。このためには高度の医療行為やその知識に加え、基礎研究を踏まえたオーダーメイド医療（precision medicine、ゲノム医療）や、社会的な要望にも精通している事が必要である。
修了要件・履修方法	博士課程の場合、4年以上在学し、指導教員の指導の下に次に定める単位を取得するとともに、学位論文を提出してその審査・口頭試問に合格すること。 （ただし、3年次の早期修了も認める。） ・臨床腫瘍学教育課程共通コア科目：4単位 ・臨床腫瘍学教育課程がん専門医共通科目：4単位 ・臨床腫瘍医専門科目：12単位 ・選択科目：10単位以上
履修科目等	必修科目（20単位） ・臨床腫瘍学教育課程共通コア科目（講義、演習及び実習）4単位 ・臨床腫瘍学教育課程がん専門医共通科目（講義及び実習）4単位 ・臨床腫瘍医専門科目（演習及び実習）12単位 ・中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムが提供するチーム医療実習を履修すること 選択科目（10単位以上） ・当コース以外のコースの教員が開講する授業科目及び専攻共通科目 ・県内外のがん診療連携拠点病院並びに研究施設に短期間（3ヶ月程度）派遣実習 ・小児ならびにAYA世代のがん治療に関する特別講義・実習 ・オーダーメイド医療（precision medicine、ゲノム医療）や社会的な要望に精通する特別講義・実習
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	現在の社会的要望でもある、地域にありながら高度のがん医療を享受出来る社会を実現するため、小児・AYA世代から高齢者にかけて、肉体的・精神的に診療できる医療人を養成する。これら総合的な医療人の養成のため、愛媛県がん患者会「NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会」と連携し、がん患者が求める医療に接する体験実習・緩和医療学演習を提供する。また、全国展開するe-learning「クラウド」や中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムが提供するe-learning教材を活用することにより、質の高い大学院講義を提供する。選択可能科目には、他地域のがん診療や臨床研究を実地体験することを目的に、県内外のがん診療連携拠点病院並びに研究施設に短期間（3ヶ月程度）派遣するプログラムや、オーダーメイド医療（precision medicine、ゲノム医療）や社会的な要望に精通する特別講義・実習も提供する。なお、学生の希望やニーズに応じて、大学院入学後のコース変更には柔軟に対応する。

指導体制	<p>医学系研究科長・医学部長 満田 憲昭（計画の総括）</p> <p>医学系研究科 分子・機能領域 臨床腫瘍学/附属病院腫瘍センター長 教授 薬師神 芳洋（計画の推進、がん薬物療法ならびに希少がん治療の指導）</p> <p>医学系研究科 社会・健康領域 医学教育学 教授 小林 直人（本計画の立案、シラバス作成、単位認定制度の整備）</p> <p>医学系研究科 分子・機能領域 小児科学 准教授 江口 真理子（小児・AYA世代医療ならびにゲノム医療教育）</p> <p>医学系研究科 器官・形態領域 放射線医学 准教授 濱本 泰（放射線治療ならびに緩和的放射線治療学の指導教育）</p> <p>医学系研究科 器官・形態領域 泌尿器科学 助教 三浦 徳宣（外科治療ならびに緩和的放射線治療学の指導教育）</p> <p>医学系研究科 分子・機能領域 小児科学 非常勤講師/愛媛県立中央病院 小児科 石田也寸志（AYA世代に対するがん治療と小児がんにおけるQOL教育）</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<p>全人的な医療人の養成を目標とする本プログラムの最終的な目標は、地域にありながら高度のがん医療を住民が享受出来る社会の実現であり、このために本コース修了者の積極的ながん診療連携拠点病院への就職ならびに、地域の拠点となる四国がんセンターや附属病院での研鑽ならびに教育職への就職を要請・推進する。そのためには、行政とのタイアップも必要と考える。</p>						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	6	6	6	6	6	30
							0
							0
							0
	計	6	6	6	6	6	30

教育プログラム・コースの概要

大学名等	愛媛大学大学院医学研究科医学専攻
教育プログラム・コース名	がん診療に携わる県下医療人養成インテンシブコース（インテンシブ）
対象者	愛媛県に在住するがんの臨床に携わる医療人一般医師・看護師・薬剤師、後期研修医、がん専門職を希望する学部学生
修業年限（期間）	30時間（インテンシブコースに関しては専門職申請に応じて延長ならびに短縮を行う）
養成すべき人材像	がん医療に関する最新の知識や技術を習得し、がん患者を集学的に診療できる医療人。特に、精神面を含めた緩和療法に関する知識や技能を習得し、地域社会でチーム医療の担い手となるべき医療人。
修了要件・履修方法	がんに対する薬物療法・外科療法・緩和療法を集学的に理解し、この履修を通じ、様々な資格（がん治療認定医、がん薬物療法専門医、がん専門看護師、がん専門薬剤師等）を取得することを最終目標とする。
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> 臨床腫瘍学教育課程共通コア科目（e-learning） 愛媛大学附属病院腫瘍センターが提供する講演会 中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムが提供するチーム医療実習 当コースの教員が開講する授業科目及び専攻科目 小児ならびにAYA世代のがん治療に関する特別講義・実習 オーダーメイド医療（precision medicine、ゲノム医療）や社会的な要望に精通する特別講義・実習
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	現在の社会的要望でもある、地域にありながら高度のがん医療を享受出来る社会を実現するため、小児・AYA世代から高齢者にかけて、肉体的・精神的に診療できる医療人を養成する。これら総合的な医療人の養成のため、愛媛県がん患者会「NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会」と連携し、がん患者が求める医療に接する体験実習・緩和医療学演習を提供する。また、e-learning教材を活用することにより、地域にあっても質の高い医学講義を提供する。希望者には、オーダーメイド医療（precision medicine、ゲノム医療）や社会的な要望に精通する特別講義・実習も提供する。
指導体制	<p>医学系研究科長・医学部長 満田 憲昭（計画の総括）</p> <p>医学系研究科 分子・機能領域 臨床腫瘍学/附属病院腫瘍センター長 教授 薬師神 芳洋（計画の推進、がん薬物療法ならびに希少がん治療の指導）</p> <p>医学系研究科 社会・健康領域 医学教育学 教授 小林 直人（本計画の立案、シラバス作成、単位認定制度の整備）</p> <p>医学系研究科 分子・機能領域 小児科学 准教授 江口 真理子（小児・AYA世代医療ならびにゲノム医療教育）</p> <p>医学系研究科 器官・形態領域 放射線医学 准教授 濱本 泰（放射線治療ならびに緩和的放射線治療学の指導教育）</p> <p>医学系研究科 器官・形態領域 泌尿器科学 助教 三浦 徳宣（外科治療ならびに緩和的放射線治療学の指導教育）</p> <p>医学系研究科 分子・機能領域 小児科学 非常勤講師/愛媛県立中央病院 小児科 石田也寸志（AYA世代に対するがん治療と小児がんにおけるQOL教育）</p>
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	全人的な医療人の養成を目標とする本プログラムの最終的な目標は、地域にありながらきめ細かいがん医療を住民が享受出来る社会の実現であり、このために本コース修了者の積極的ながん診療連携拠点病院への就職ならびに、地域の拠点となる四国がんセンターや附属病院での研鑽ならびに教育職への就職を推進する。そのためには、行政とのタイアップも必要と考える。

受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	一般医師他	10	10	10	10	10	50
	看護師	5	5	5	5	5	25
	薬剤師	3	3	3	3	3	15
							0
	計	18	18	18	18	18	90

教育プログラム・コースの概要

大学名等	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科						
教育プログラム・コース名	がん専門医養成コース						
対象者	医歯薬学総合研究科 大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	細分化・専門化するがん診療の多様なニーズに対応するため、全10領域（がん薬物療法専門医、がん治療認定医、放射線治療医・放射線診断医、緩和医療、精神腫瘍、ゲノム医療専門医、希少がん治療専門医、小児がん専門医、AYA世代がん専門医、高齢者がん専門医）において高水準な専門性を有する専門医を養成する。また専門化の弊害として、患者に対し全人的な対応が行われにくくなる現状を考え、高い専門性と同時にチーム医療に精通した医療者の養成を目指す。						
修了要件・履修方法	所定の30単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、研究科の行う学位論文の審査及び最終試験に合格すること。						
履修科目等	研究方法論基礎（5単位）研究方法論応用（6単位）悪性腫瘍の管理と治療（1単位）医療倫理と法律的・経済的問題（0.5単位）医療対話学（0.5単位）がんチーム医療（0.5単位）医療情報学（0.5単位）がんのベーシックサイエンス・臨床薬理学（1単位）がんの臨床検査・病理診断・放射線診断学（0.5単位）がん緩和治療（0.5単位）臓器別がん治療各論（2単位）臨床腫瘍学実習（8単位）専門研究（4単位）なお、各専門領域毎に必修の履修科目を設ける。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本コース教育の特色としては各領域の専門性とチーム医療の連携性の両面を高い水準で習得することを目的とする。専門性については、ゲノム医療・年代別がん医療、希少がん医療など今後ますます多様化する各分野を学習し、チーム医療については下記のようなチーム医療合同演習を核とした教育を行う。						
指導体制	職種横断的な教育を目的として、臨床腫瘍共通コアカリキュラムを設定。全国eラーニングクラウドにも参加し他学の講義を履修することで多分野の最新知識を修得できる。また、がん専門医のみならず多職種全連携大学の大学院生を一同に会した実習（合同演習）を行い、チーム医療の重要性を学ばせる。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	各領域において高い専門性を持つ当コース修了者が卒業後、がん拠点病院を中心とした地域のがん診療病院に赴任することでそれぞれの地域でのがん診療を担う人材となる。また彼らはがんプロ在学中に築きあげた人的ネットワークを生かし、地域がん診療ネットワークの中心的人材となる。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	がんプロ大学院生	8	8	8	8	8	40
							0
							0
	計	8	8	8	8	8	40

教育プログラム・コースの概要

大学名等	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科生体制御科学専攻						
教育プログラム・コース名	がん専門職（がん専門・指導薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師）養成コース						
対象者	薬学科大学院生（博士課程、薬剤師免許取得者にかぎる）						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がん薬物療法の基盤となる概念・理論を理解し、臨床における問題点、すなわち、分子標的薬を含む抗がん薬の副作用回避・予防策、効果的な使用、およびがん疼痛緩和ケアにおける患者個別対応・適正化のために問題解決能力を備える薬剤師を養成する。がん薬物療法を科学的視点から解析し、患者個々に応じたがん薬物療法および計画を他職種と協議し、提案できる薬剤師を輩出する。						
修了要件・履修方法	岡山大学病院および連携するがん診療連携拠点病院、在宅クリニックにおいて臨床研修を終了する。実技・実習および講義・演習については必修科目（30単位）を履修すること・自ら計画した臨床研究の結果を論文として発表して学位審査会で審査を受け、合格すること。						
履修科目等	<必修科目> 共通コア科目14単位、専門科目16単位（がん専門薬剤師科目7単位を含む）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	既存の大学院課程の講義に加え、岡山大学病院および連携するがん診療連携拠点病院、在宅クリニックあるいは薬局における臨床研修を行う。臨床研修はコミュニケーションスキルおよび問題点抽出能力を高める。見出した臨床での問題点を他職種と協議し、臨床的介入研究を行い、本課程での研究成果を英文論文としてまとめる。						
指導体制	既存の大学院課程の講義に加え、e-ラーニングを活用することにより、臨床腫瘍学共通カリキュラムを履修する（岡山大学薬学部）。岡山大学病院および連携するがん診療連携拠点病院、在宅クリニック、薬局において臨床研修を行う（岡山大学病院薬剤部、薬学部）。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	現場に出た際に、がん薬物療法を適切にマネジメントできる薬剤師、すなわち、がん専門・指導薬剤師および緩和薬物療法認定薬剤師を目指す。学位所得後は後進の育成・地域におけるがん薬物療法をリードする薬剤師を目指す。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	薬学科大学院生(博士課程、薬剤師免許取得者)	1	1	1	1	1	5
							0
							0
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	岡山大学大学院保健学研究科
教育プログラム・コース名	高度実践看護師（がん看護専門看護師）コース
対象者	保健学研究科保健学専攻看護学分野 大学院生
修業年限（期間）	2年（長期履修4年）
養成すべき人材像	がん看護領域における高度実践看護師（がん看護専門看護師）を養成する。高度実践看護師とは、「ケアとキュアを統合した高度な看護実践能力」を有すると認定された看護職者であり1）、保健・医療・福祉現場において、複雑な健康問題を有するがん患者・家族・集団に対して、卓越した直接的ケア・コンサルテーション・コーディネーション・倫理調整・教育・研究を行い、ケアシステム全体の改善・質向上を図ることを目的に活動する。【文献】1）一般社団法人 日本看護系大学協議会：平成29年度 高度実践看護師教育課程基準 高度実践看護師教育課程審査要項、2017
修了要件・履修方法	共通・コア科目6単位以上、共通科目18単位、専攻分野共通科目8単位、専攻専門科目10単位、実習10単位、合計52単位以上を履修し、課題研究論文（2単位）の審査・最終試験に合格すること。がん看護専門看護師の資格取得は、大学院修了後、公益社団法人日本看護協会の行う認定審査を受験し合格する必要がある。
履修科目等	【共通・コア科目（6単位以上）】ヘルスプロモーション科学(2)、医療倫理学(2)、危機管理学(2)、医療対話学(2)、国際保健学(2)、研究方法論(2) 【共通科目A】看護教育論(2)、看護管理論(2)、看護理論(2)、看護研究(2)、看護コンサルテーション論(2)、看護倫理(2) 【共通科目B】臨床薬理学特論(2)、看護ヘルスアセスメント(2)、病態生理学(2) 【専攻分野共通科目】がん病態生理学(2)、がん看護論(2)、がん看護特論Ⅰ(2)、がん看護特論Ⅱ(2) 【専攻専門科目】疼痛看護学(2)、緩和ケア看護学特論Ⅰ(2)、緩和ケア看護学特論Ⅱ(2)、がん薬物療法看護学特論Ⅰ(2)、がん薬物療法看護学特論Ⅱ(2) 【実習科目】がん看護学実習Ⅰ(2)、がん看護学実習Ⅱ(2)、がん看護学実習Ⅲ(2)、がん看護学実習Ⅳ(4)、〈研究〉がん看護学課題研究(2) * ()内は単位数
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本研究科のがん看護専門看護師コースは、従来の26単位教育課程から38単位教育課程へと充実発展させ、日本看護系大学協議会による資格審査を経て承認された。主な変更点は、臨床薬理学・病態生理学・フィジカルアセスメントなどの講義、医師の指導を受けるがん看護学実習Ⅱ（がん薬物療法）・がん看護学実習Ⅲ（緩和ケア）などの実習の強化であり、従来よりもキュアについてのより深い理解を進めることで、ケアとキュアを統合したより質の高い看護実践を目指す。また、超高齢化・多死社会に備え、地域連携・在宅がん看護を強化する。
指導体制	がん看護学を専門とするコース責任者を中心に、がん看護専門看護師、医師（緩和医療学・外科学・婦人科学・腫瘍学・放射線医学・病理学など）、薬剤師、看護部長、看護教員（疼痛看護学・リンパ浮腫ケア・看護教育）、人文社会学系研究者（哲学・倫理学）など、多彩な領域の専任教員・非常勤講師により指導する。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	以下の活動を通して、がん看護のエキスパートとして、地域全体・組織全体に貢献する。(1)がん診療連携拠点病院等のがん看護専門看護師として、県下全域のがん看護実践の向上を目指した教育活動を行う。(2)超高齢・多死社会問題に対して、地域におけるがん医療・訪問看護の要としてコンサルテーション活動・高度実践を行う。(3)グローバル化に対応し、海外の専門看護師・ナースプラクティショナーと共同で研究・実践を行う。(4)研究者として、がん看護学のエビデンスを構築する。(5)看護部長として、トップマネジメントを行うと共に、複数の専門看護師が有機的に機能できるようマネジメントする。

受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	0	2	2	2	2	8
							0
							0
							0
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	岡山大学大学院保健学研究科
教育プログラム・コース名	医学物理コース
対象者	保健学研究科大学院生等
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	希少がん・小児がん・緩和ケアに関連する放射線医療に関して国際的な視点で考え、チーム医療の実践ならびに研究、教育の一端を担う優れたがん放射線医療専門人の養成を主目的とする。
修了要件・履修方法	本課程に2年以上在籍して、所定の単位（30単位以上）を習得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、指導教員から論文指導を受け修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格すること。 所定の単位は、①がんプロの共通コアカリキュラム4単位以上、②がん専門コメディカル共通科目2単位以上、③専門科目14単位以上、④選択科目10単位以上、合計30単位以上とする。
履修科目等	<p><共通コアカリキュラム> がんチーム医療実習（0.5単位）、研究方法論応用（1単位）、悪性腫瘍の管理と治療（1単位）、医療倫理と法律的経済的問題（0.5単位）、医療情報学（0.5単位）、コミュニケーションスキル（0.5単位）。</p> <p><がん専門コメディカル共通科目> がんのベーシックサイエンスと臨床薬理学（1単位）、がんの臨床検査・病理診断・放射線診断学（0.5単位）、臓器別がん治療各論（2単位）、がん緩和治療（0.5単位）。</p> <p><医学物理コース専門科目> 医用物理学特論（2単位）、医用物理学演習（2単位）、生体情報計測学特論（2単位）、生体情報計測学演習（2単位）、医用画像解析学特論（2単位）、医用画像解析学演習（2単位）、放射線生命科学特論（2単位）、放射線生命科学演習（2単位）、放射線治療技術学特論（2単位）、放射線治療技術学演習（2単位）、放射線治療品質管理学特論（2単位）、放射線治療品質管理学演習（2単位）、核医学検査技術科学特論（2単位）、核医学検査技術科学演習（2単位）、放射線健康科学特論（2単位）、放射線健康科学演習（2単位）。</p> <p><医学物理コース選択科目> 医療情報理工学特別研究（10単位）、放射線健康支援科学特別研究（10単位）。</p>
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	既存の大学院教育システムを発展的に改革し、がん放射線医療ならびにがん医療の実践に必要な専門教育科目について、英語の活用とともに充実させる。また、共通科目、専門科目にe-learning等の補助教材を有効活用し、効果的に高度専門教育が受けられる環境を提供する。大学間、職種間によるチーム医療の実践を修得する。
指導体制	所定のカリキュラムに従い、医師、診療放射線技師等の実務家教員（医歯薬学研究科、保健学研究科）による講義・演習を展開する。

教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	希少がん・小児がん・緩和ケアに関連する質の高いがん医療やチーム医療の実践にあたり、高度ながん放射線診療を支える専門知識や臨床スキルを身につけた医療人を養成し、放射線治療専門診療放射線技師、放射線治療品質管理士、医学物理士、等を輩出する。また、次世代を担う優れたがん放射線医療専門人として、がん・緩和放射線医療の高度化に向けて大きく貢献することが期待される。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	保健学研究科 大学院生等	1	1	1	1	1	5
							0
							0
							0
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻						
教育プログラム・コース名	地域で活躍するがん専門医療人養成インテンシブコース（インテンシブ）						
対象者	地域でがん医療に携わる医療者がん専門薬剤師・がん関連認定看護師訪問看護師・歯科衛生士・臨床心理士・がん相談員・ピアサポーター等						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がん診療の専門化・細分化が進む一方で、包括的にがん診療を行うことのできる医療人の数は乏しいのが現状である。この問題の解決のため、臓器横断的、職域横断的、かつ全人的にがん医療に関わることでがん患者、家族及びびがんと向き合うすべての人々の健康に寄与し、科学性と豊かな人間性を兼ね備えたがん専門医療人を養成する。						
修了要件・履修方法	大学院コースに設置する臨床腫瘍共通カリキュラムのうち、指定する科目を対面、或いはe-learningで履修する。						
履修科目等	悪性疾患の管理と治療（総論）、緩和医療学、がんの在宅医療、がんの心理社会的側面、コミュニケーションスキル、カンサーボードなど						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	臨床腫瘍共通カリキュラムの一部を共有（解放）し、職種間の壁を排除しすべての履修者が共通の臨床腫瘍学、緩和ケア、精神腫瘍学、チーム医療、在宅医療等を履修する。						
指導体制	年4～6回程度セミナーや講演会など生涯教育講座を開催し、各専門職内でのレベルアップと地域連携の強化を図る。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	もともと地域で包括的にがん患者に関わる医療者が本インテンシブコースで学ぶことにより、がん診療についてさらに診療水準があがることができ、ひいては地域のがん診療レベルの底上げにつながる。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医療者全般	200	200	200	200	200	1,000
							0
							0
							0
	計	200	200	200	200	200	1,000

教育プログラム・コースの概要

大学名等	岡山大学大学院保健学研究科						
教育プログラム・コース名	医学物理コース（インテンシブ）						
対象者	地域でがん放射線医療を担当する医療人						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	希少がん・小児がん・緩和ケアに関連する放射線医療に関して国際的な視点で考え、チーム医療の実践ならびに研究、教育の一端を担う優れたがん放射線医療専門人の養成を主目的とする。						
修了要件・履修方法	セミナー（月2回開催）およびFD研修会（年1回開催）を受講する。各セミナー・研修会に参加し、1回のセミナー・研修会について全て受講する。						
履修科目等	悪性腫瘍の管理と治療、放射線生物学、放射線治療物理学、放射線技術学、放射線治療機器学、放射線計測学、放射線治療計画技術学、放射線治療品質管理学、放射線安全管理学、医療安全学、放射線治療看護学、医療倫理学、医学物理学、チーム医療論、等。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	希少がん・小児がんへの放射線医療ならびにがん医療・緩和ケアの実践応用に必要な専門教育について、英語の活用とともに充実させる。また、e-learning等の補助教材を有効活用し、効果的に高度専門教育が受けられる環境を提供する。地域連携、職種間によるチーム医療の実践を修得する。						
指導体制	所定のカリキュラムに従い、医師、看護師、診療放射線技師、開発技術者、等の実務家（医歯薬学研究科、保健学研究科）を中心とした講義・演習を展開する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	希少がん・小児がん・緩和ケアに関連する質の高いがん医療やチーム医療の実践応用にあたり、臨床現場において中軸を担う高度ながん放射線診療を支える専門知識や臨床スキルを身につけた医療人（放射線治療専門診療放射線技師、放射線治療品質管理士、医学物理士、等）を養成し、輩出する。また、次世代を担う優れたがん放射線医療専門人として、がん・緩和放射線医療の高度化および地域間の連携に大きく貢献することが期待される。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	地域でがん放射線医療を担当する医療人	5	5	5	5	5	25
							0
							0
	計	5	5	5	5	5	25

教育プログラム・コースの概要

大学名等	香川大学大学院医学系研究科 医学専攻 高度医療人育成コース						
教育プログラム・コース名	がんプロフェッショナル養成コース						
対象者	医学系研究科博士課程大学院生（医師）						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・標準的がん医療に精通したがん専門医 ・国際的視野を有し、教育・臨床研究の志向を持ったがん専門医 ・多職種と連携してがん治療が行えるがん専門医 						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>大学院に4年以上在学し、授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p><履修方法>必修科目14単位、選択必修科目・選択科目合わせて16単位以上の合計30単位以上を履修する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>共通科目（6単位）、課題研究（8単位）</p> <p><選択必修科目・選択科目>「がんプロフェッショナル養成科目群」（主科目）から8単位以上、副科目から4単位以上、計16単位以上を修得する。</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> ・従来、不十分であった高齢者やフレイルな患者さんに対する対応、AYA世代がん患者・小児がん患者がそれぞれのライフステージで抱える様々な問題に対する特別な配慮、さらには希少がん患者に対する充実した治療などを重点的に行う。 ・全ゲノム解析を含む遺伝子情報を利用した個別化がん治療の推進。 ・従来、大学では行うことが困難をされていた治験や臨床試験への取り組みや、それに対する実務的事項の教育を進める。 ・がん患者が治療と仕事とを両立できるための就労支援について学ぶ。 						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時に研究テーマにより主指導教員を決定し、1年次修了の際に他分野の副指導教員を決定することで、広い視野に立って研究活動を推進するのに必要な学識と技術の体系的な修得を図る。 ・e-learningで学外の教員の講義を受講して必修単位を修得できる。 ・e-ポートフォリオでコンソーシアム内の学外教員から専門試験に必要なレポートの助言を受けることができる。 						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> ・在学中または修了後に専門医を取得し、勤務先での先進的がん治療を行うとともに、指導医として後進の育成を行う。 ・インテンシブセミナーを通じて知識や技術のアップデートを図り、地域のがん医療の均てん化に資する。 						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	3	3	3	3	3	15
							0
							0
							0
	計	3	3	3	3	3	15

教育プログラム・コースの概要

大学名等	香川大学大学院医学系研究科 医学専攻 高度医療人育成コース						
教育プログラム・コース名	がんプロフェッショナル養成コース						
対象者	医学系研究科博士課程大学院生（メディカルスタッフ）						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・がん専門医と連携してがん治療が行えるがん専門医療人 ・地域に根ざし、標準的がん医療に精通したがん専門医療人 						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>大学院に4年以上在学し、授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p><履修方法>必修科目14単位、選択必修科目・選択科目合わせて16単位以上の合計30単位以上を履修する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>共通科目（6単位）、課題研究（8単位）</p> <p><選択必修科目・選択科目>「がんプロフェッショナル養成科目群」（主科目）から8単位以上、副科目から4単位以上、計16単位以上を修得する。</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> ・従来、不十分であった高齢者やフレイルな患者さんに対する対応、AYA世代がん患者・小児がん患者がそれぞれのライフステージで抱える様々な問題に対する特別な配慮、さらには希少がん患者に対する充実した治療に対し、他職種で連携して取り組めるチーム医療スタッフの育成を進める。 ・がん患者が治療と仕事とを両立できるための就労支援について学ぶ。 						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時に研究テーマにより主指導教員を決定し、1年次修了の際に他分野の副指導教員を決定することで、広い視野に立って研究活動を推進するのに必要な学識と技術の体系的な修得を図る。 ・e-learningで学外の教員の講義を受講して必修単位を修得できる。 ・e-ポートフォリオでコンソーシアム内の学外教員から専門試験に必要なレポートの助言を受けることができる。 						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> ・在学中または修了後に専門資格を取得し、勤務先での先進的がん治療を行うとともに、指導スタッフとして後進の育成を行う。 ・インテンシブセミナーを通じて知識や技術のアップデートを図り、地域のがん医療の均てん化に資する。 						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	1	1	1	1	1	5
							0
							0
							0
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	香川大学大学院医学系研究科 医学専攻						
教育プログラム・コース名	地域がん医療人共育コース（インテンシブ）						
対象者	地域で活動するがん医療を担当する多職種の医療人（医師及びメディカルスタッフ（看護師、薬剤師、管理栄養士、ソーシャルワーカー、臨床心理士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、がん相談員など））						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	最新のがん治療の知識と多職種でのチーム医療に精通し、がん患者、家族及びがんと向き合う全ての人のケアを行える豊かな人間性を備えたがん専門医療人						
修了要件・履修方法	各セミナーの受講						
履修科目等	地域医療人を対象として開催する各種セミナー						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者がん・AYA世代がん・小児がんなど、それぞれのライフステージで抱える個別の問題に対する理解を深め、パーソンセンタードケアを推進する。 ・多職種の医療スタッフがインテンシブセミナーで情報を共有し、各々の知識やスキルを使って多角的視点から問題解決を図るチーム医療スタッフの育成に努める。 ・遺伝子情報を利用した最新のがん治療に対する見識を深める機会を提供する。 						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・中国四国地方に限らず全国からセミナー講師を招聘し、先進的がん治療の知識や情報を共有する。 ・定期的で開催するセミナーのアンケート結果を基に、セミナー参加者が必要とする講演テーマを調査し、次回開催時にはその要望を反映した講演内容を企画する。 						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	がん患者の予後やQOL、満足度の向上が期待できる。中国・四国地区のがん緩和医療の均てん化と質の向上が得られる。多職種の医療人が共に学ぶことで、相互に情報交換し、他職種への理解を深め、職種を超えたチーム医療の実現に資する。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	多職種医療人	180	180	180	180	180	900
							0
							0
							0
	計	180	180	180	180	180	900

教育プログラム・コースの概要

大学名等	川崎医科大学大学院医学研究科医科学専攻						
教育プログラム・コース名	がん専門医療人養成コース						
対象者	川崎医科大学大学院医学研究科大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	専門診療科に関わらず広く腫瘍学に精通し、かつがん患者のライフステージに応じた全人的ながん診療を実践し、多職種でのチーム医療においてリーダーシップをとることのできる専門医を養成する。						
修了要件・履修方法	4年間の博士課程において所定の単位を修得し、作成した研究論文が学位審査に合格することを要件とする。						
履修科目等	悪性腫瘍の管理と治療、医療倫理と情報学、医療社会学、がんのベーシックサイエンス、臨床薬理学、臨床検査・病理・放射線診断学、臓器別がん治療各論、がん緩和治療、臨床腫瘍学実習、専門研究、臓器別がん特論・演習、臨床研究遠隔学習プログラムgMAP（医学研究概論を含む）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	職種横断的な教育プログラムを構築し多分野での最新知識を習得できる。また、多職種でのカンファレンスや合同演習などを通じて、がん診療における問題点を共有化し、チーム医療を実践しうるがん専門医としての人格の涵養を目指す。						
指導体制	川崎医科大学大学院医学研究科の教員が講義または演習を行う。また、e-learningを用いてコンソーシアム内の他施設の講義も履修できる環境が整備されている。コンソーシアム内の教員による合同演習も年1回実施する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	大学における教育的立場に進み、後進の指導に当たる。もしくは、中国四国地域を主とする地域医療において、がん診療の均てん化に貢献しうる指導的立場になることを想定している。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	2	2	2	2	2	10
							0
							0
							0
	計	2	2	2	2	2	10

教育プログラム・コースの概要

大学名等	川崎医科大学大学院医学研究科医科学専攻						
教育プログラム・コース名	地域がん診療支援専門医療人養成インテンシブコース（インテンシブ）						
対象者	川崎医科大学大学院医学研究科に入学したもの 既に地域でがん診療に携わっている医師・メディカルスタッフ						
修業年限（期間）	1日～7日間程度						
養成すべき人材像	地域のがん診療、特に、希少がん、小児がん、ゲノム医療、がん患者のライフステージに応じた全人的ながん診療、ならびにスタッフ教育において中心的役割を果たすことのできる医師ならびにメディカルスタッフ						
修了要件・履修方法	①講習コース：開催するセミナーに参加し、1回の全講義について全て聴講する。 ②研修コース：研修に参加し、全課程を修了する。						
履修科目等	①講習コース：希少がん、小児がん、ゲノム医療、AYA世代がん、高齢者がん、がんのベーシックサイエンス、悪性腫瘍の管理と治療、臨床薬理学、放射線診断学など。 ②研修コース：緩和治療実習、医療対話学実習、がんチーム医療実習、がん薬剤師実習、放射線治療見学、FD研修など。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	①セミナー形式の講習コースと②FD・実技の研修を集中的に行うコースを設置する。セミナー形式においては、(1)医師を中心とした医療関係者に、最新のがん治療情報を講義し、地域のがん治療の全般的なボトムアップを図るセミナー（年2回開催）、(2)看護師その他のメディカルスタッフを対象として、がんの基礎的な知識を講義し、がん診療のチームに参加することが可能なメディカルの基盤育成を図るセミナー（年2回開催）を行う。研修コースでは、1日～7日間程度の期間で医師・メディカルスタッフを受け入れ、FDおよび研修を集中的に行う。						
指導体制	川崎医科大学附属病院院内がんセンター、川崎医科大学総合医療センターのがん専門職が指導を行う。また、必要に応じて、外部の専門医療人を招聘する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	修了証を発行する						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生及び医師・メディカルスタッフ	100	100	100	100	100	500
							0
							0
							0
	計	100	100	100	100	100	500

教育プログラム・コースの概要

大学名等	高知大学大学院総合人間自然科学研究科医学専攻						
教育プログラム・コース名	がん専門医養成コース						
対象者	医学専攻（博士課程）大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高度な専門的知識と技術を有するとともに多職種と連携し、チーム医療の担い手となりうるライフステージに応じたがん治療を行うことができる人材。 ・ 乳がんや子宮頸がんなどの発症を代表とするAYA世代における診療および研究に加え、一般市民に対する啓発活動も行うことができる人材。 ・ 多くの合併症を有する高齢者の治療に携われる能力を持った人材。 ・ がん治療に関する教育・研究マインドを有する人材。 						
修了要件・履修方法	博士課程共通科目 2 単位、共通コアカリキュラム 4 単位、がん専門医・薬剤師共通科目 4 単位、腫瘍専門医科目 20 単位以上を履修し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格すること。						
履修科目等	<必修科目> DCセミナー、医療倫理、悪性腫瘍の管理と治療他計 6 科目、がん専門医・薬剤師共通科目 4 科目、研究演習 <選択科目> 腫瘍専門医分野・放射線治療専門医分野・腫瘍専門外科医分野の演習、特論科目から 2 科目以上選択						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	既存の大学院教育システムを発展的に改革しつつ、中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムの提供する e-learning を活用し、連携大学のコンテンツを視聴することも可能となるため、効率的に高度な専門教育を受けられる環境を整える。 低侵襲手術教育・トレーニングセンターの各種シュミレーターを用いた教育プログラムにより、がんに対する高度な手術手技の習得に努める。さらに、この教育を通して得た高度な技術を、地域の医師に指導することができる人材の育成に努める。 また、地域のがん相談センターでの実習を通して、“がん患者の心がわかる医療人”すなわち、小児・AYA世代から高齢者に至る様々な世代の患者のニーズに的確に応えることの出来る人材育成を目指す。さらに、高知県が取り組んでいるがん診療地域連携パス作成を通じ、“地域の顔の見える連携”作りに参加する。						
指導体制	e-learning を活用する。また、eポートフォリオを利用することにより、学内のみならずコンソーシアム内の連携大学の教員からの助言も得られる環境を整える。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	専門資格の取得を目指すとともに、乳がんや子宮頸がんなどの発症を代表とするAYA世代における診療および研究に加えて、一般市民に対する啓発活動もできる人材や、多くの合併症を有する高齢者の治療に携われる能力を持った人材を目指す。						
受入開始時期	平成 29 年 6 月						
	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	1	1	1	1	1	5

受入目標人数							0
							0
							0
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	高知大学大学院総合人間自然科学研究科医学専攻						
教育プログラム・コース名	がん専門薬剤師コース						
対象者	医学専攻（博士課程）大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・地域において、がん医療に携わる薬剤師のリーダーとなりうる人材。 ・高度な専門的知識と技術を有するとともに多職種と連携し、ライフステージに応じたがん薬物治療をサポートすることができる人材。 ・がん治療、特にがん薬物療法に関する教育・研究マインド（基礎・臨床）を有する人材。 						
修了要件・履修方法	博士課程共通科目 2 単位、共通コアカリキュラム 4 単位、がん専門医・薬剤師共通科目 4 単位、がん専門薬剤師専門科目 1 2 単位、選択科目 8 8 単位以上を履修し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格すること。						
履修科目等	<p><必修科目> DCセミナー、医療倫理、悪性腫瘍の管理と治療他計 6 科目、がん専門医・薬剤師共通科目 4 科目、課題研究</p> <p><選択科目> 医療薬学研究方法論Ⅱ、ゲノム医療薬学他計 5 科目から 4 科目以上選択</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<p>既存の大学院教育システムを発展的に改革しつつ、中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムの提供するe-learningを活用し、連携大学のコンテンツの視聴することも可能となるため、効率的に高度な専門教育を受けられる環境を整える。</p> <p>また、多職種が参加するキャンサーボードやカンファレンスでの発表や緩和ケアを含む多職種からなる医療チームへ参画する。さらに、薬薬連携（病院薬剤師と薬局薬剤師の連携）等の地域ネットワークを活用した教育実習を実施する。</p>						
指導体制	教員およびがん専門薬剤師の指導を基に研究体制を推進する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	専門資格の取得を目指しながら、がん研究および地域医療における臨床経験を積み、がん専門薬剤師としてスキルや専門性を身につける。その後は、がん専門薬剤師として薬薬連携において、指導的立場となるべくキャリアを形成する。						
受入開始時期	平成 2 9 年 6 月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	1	1	1	1	1	5
							0
							0
							0
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	高知大学大学院総合人間自然科学研究科医学専攻						
教育プログラム・コース名	在宅がん医療・緩和療法コース（インテンシブ）						
対象者	地域で在宅がん医療や地域連携に携わる医療従事者（医師、歯科医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、ケアマネジャーなど）を対象とする。						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がん診療・緩和ケア・高齢者介護の視点から、在宅医療を理解しマネジメントできる人材。						
修了要件・履修方法	在宅がん医療、緩和療法に関する集中セミナー（ワークショップ）または講演会等を受講し、修了証明を受ける。						
履修科目等	在宅がん医療、緩和療法に関する集中セミナー（ワークショップ）または講演会						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	地域で在宅がん医療や地域連携に携わる医療・介護従事者を対象とし、がん診療・緩和ケア・高齢者介護の視点から、在宅医療を理解しマネジメントできる人材を育成し、多職種が連携し地域の状況に即した切れ目がなく、患者のニーズに対応できる医療を提供することを目指す。また、高知大学は地域に根差した大学として、地域における連携マネジメントを担う人材を育成することで地域に貢献する。						
指導体制	多職種ワークショップ（ワールドカフェ方式）を集中セミナーとして実施し、“地域の中で顔の見える連携”の構築、患者のニーズに対応することのできる人材を育成する。講演会では「緩和ケア・在宅がん医療」の第一線で活躍している医療人による講演をヒントに、各々の臨床での問題点に対する解決策を見出す。総合的に地域連携におけるマネジメントができるように導いていく。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースは、多職種の良好な関係を構築して、患者のニーズに対応できる人材の育成を目指しており、各地域の中で多職種連携をマネジメントできる人材として活躍でき、在宅療養、緩和ケアの質の向上に貢献できる。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医療従事者	30	30	30	30	30	150
							0
							0
							0
	計	30	30	30	30	30	150

教育プログラム・コースの概要

大学名等	高知県立大学大学院看護学研究科
教育プログラム・コース名	APNコースⅠ：Lifeを支える高度実践看護師養成コース ～がん患者と家族のライフステージのニーズに応える高度専門看護師養成～
対象者	看護学研究科博士前期課程大学院生（専門看護師コース）
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・がん患者・家族のライフステージの新ニーズへの対応を目的として、個人-家族-集団に対して、ケアとキュアの統合による高度な看護学の知識・技術を駆使して、対象の治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、がん看護をサブスペシヤリティとする高度実践看護師 ・がん患者・家族のQOLの維持・向上を目的として、個人-家族-集団に対して、ケアとキュアの統合による高度な看護学の知識・技術を駆使して、対象の治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供できるがん高度実践看護師
修了要件・履修方法	看護共通科目14単位、専攻分野共通科目6単位、専攻分野専門科目8単位以上、実習10単位、高度実践看護師セミナーを履修し、最終試験に合格すること。大学院修了後、日本看護協会の専門看護師認定試験に合格すること。
履修科目等	<p><必修共通科目>看護実践と理論(2)、看護実践と研究(2)、看護倫理(2)、看護コンサルテーション論(1)、看護サービス論(2)、フィジカルアセスメント特論(2)、病態生理学(2)、臨床薬理学(2) 他</p> <p><必修専門科目>看護論(4)、看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(4)他、家族看護論(2)、家族看護援助論(2)、がん病態生理学(2)、がん診断治療学(1)、がん薬理学(1)、看護学実践演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ(10)、看護課題研究(2)</p> <p><高度実践看護師セミナー> がん看護のコア科目、小児がんの子どもへのケア、AYA世代の人々のケア、就職・就労支援、高齢者のがん治療とケア、在宅がん看護などから選択</p>
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	<ul style="list-style-type: none"> ・小児看護、老人看護、家族看護、精神看護、慢性看護、在宅看護等の高度実践看護師コースの学生が、がん看護の専門的な知識と技術を学び、サブスペシヤリティをがん看護とする高度実践看護師を育成するプログラム。 ・がん患者・家族にケアを提供している他領域の専門看護師(小児看護, 老人看護, 家族看護, 精神看護, 慢性看護, 在宅看護) のもつ専門的な知識と技術を学び、拡張するがん看護ケアの専門性を開発するプログラム。 ・講義-演習-実習においてシミュレーション教育を充実させるとともに医師と協働する医療処置の習得やケアとキュアの統合による看護モデルを開発する。 ・がん医療チームにおける看護の役割責任が果たせるよう大学間、他の職種とのチームアプローチ技術を習得できるようにする。
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・特任助教とがん看護学領域教員が中心となり、他領域の専門看護師(小児看護、老人看護、家族看護、精神看護、慢性看護、在宅看護等)や教員と連携して指導体制を確立する。 ・医療現場と教育現場との連携を強化：病院や在宅部門と大学が連携して教育(実習など)を進め教育効果をあげる。臨床指導医との協働を強化する。

教育プログラム・ コース修了者の キャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> ・中国四国地域のがん診療に関わる医療機関や在宅部門において、ライフステージに応じたがん対策を推進する高度実践看護師として活動 ・中国四国地域で生活する小児から高齢者まで、多様な価値観と文化をもつがん患者・家族の健康と生活の支援を牽引するリーダー 						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	3	4	4	4	4	19
							9
							0
							0
	計	3	4	4	4	4	19

教育プログラム・コースの概要

大学名等	高知県立大学大学院看護学研究科						
教育プログラム・コース名	APNコースⅡ：がん看護の専門性の高い看護師養成コース ～Cancer Trajectoryをたどる人のニーズに応える高度実践を創造する看護師養成～（インテンシブ）						
対象者	専門看護師コース修了生、専門看護師、認定看護師						
修業年限（期間）	6か月（土日開講および集中講義）						
養成すべき人材像	・小児から高齢者までのライフステージやがんの特性を考慮して、がんとともに生きる人とその家族の健康と生活に関わるニーズに応えられる専門性の高い実践ができる看護師						
修了要件・履修方法	・本教育プログラム（アドバンストコース）で定める科目について受講し、証明を受ける						
履修科目等	<選択科目> Step1:がん病態生理学、がん診断治療学、がん薬理学など Step2:がん看護のコア科目 Step3:小児がんの子どもへのケア、AYA世代のがん患者のケア、就職・就労支援、高齢がん患者の治療やケア、在宅がん看護、緩和ケアなど						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	・がん看護を専門としない専門看護師コース修了生や専門看護師、認定看護師が、がん患者と家族の多様な新ニーズに対応するための専門的な知識と技術を修得できる教育プログラムである。 ・小児から高齢者まで様々な状況におかれているがんとともに生きる人の看護に携わっているがん看護を専門としない専門看護師コース修了生や専門看護師、認定看護師が、本プログラムを受講することによって、より対象に対してがんの特性やニーズに沿った看護実践力を修得することが期待できる（Step1. 2. 3）。 ・がん看護専門看護師が、ライフステージに特化したニーズに応えることができる能力を高めることができる（Step3）。 ・座学だけでなく、e-ラーニング、シュミレーション教育や最新のがん医療・看護に関する教材を取り入れて、教育効果を高める。						
指導体制	・特任助教とがん看護学領域教員が中心となり、他領域の専門看護師（小児看護、老人看護、家族看護、精神看護、慢性看護、在宅看護等）や教員と連携して指導体制を確立する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	・専門看護師、認定看護師として、がんとともに生きる人とその家族の支援に強い看護者として役割拡大する。 ・中国四国地域で生活する小児から高齢者まで、多様な価値観と文化をもつがんとともに生きる人と家族の健康と生活の支援推進者						
受入開始時期	平成29年9月						
	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	CNSコース修了生 専門看護師 認定看護師	2	3	3	3	3	14

受入目標人数							0
							0
							0
	計	2	3	3	3	3	14

教育プログラム・コースの概要

大学名等	高知県立大学大学院看護学研究科						
教育プログラム・コース名	インテンシブコース I ～高齢がん患者に安心をもたらすケアを創造していく訪問看護師の育成～（インテンシブ）						
対象者	中国四国のがん看護に携わる看護師：高齢がん患者の看護に携わる訪問看護師および在宅移行支援の必要な高齢がん患者の入院病棟及び外来の看護師、地域連携室の看護師等						
修業年限（期間）	5 か月（隔週土日、祝日開講）						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢がん患者の入院早期から退院後の生活を見通してケアを提供し、在宅療養の可能性と選択を広げることのできる看護職 ・ チーム医療を基盤とする在宅がん医療や福祉をコーディネートし、推進していくことのできる高齢がん患者とその家族のケアに関する専門的知識と技術を有する看護職 						
修了要件・履修方法	・ 15日間の看護教育プログラム（単発は認めない）内容を履修すること。8割以上の参加者は修了時に、本事業から認定証を発行する。						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者看護、在宅がん医療、在宅がん看護をコアとする科目設定を行う。 ・ PDCAサイクルを機能させ、毎年、年度末には評価し、教育プログラム全体を見直し履修科目内容を精選する。 						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 15日間の高齢がん患者の在宅療養支援のための看護教育プログラムを、がん看護、高齢者看護、在宅がん医療や福祉に携わる関係者（医師・看護師〔専門看護師・認定看護師〕・薬剤師・栄養士・MSW・在宅福祉関係者など）と協働して開発し、高齢がん患者のケアに特化した研修とする。 ・ 座学だけでなく、e-ラーニング、シミュレーション教育を取り入れ、講義-演習-実習をつなげる訪問看護師を中心とする現任教育である。 ・ 高齢がん患者のケアに強い教員および特任助教を中心にケア技術に関するDVDを開発・作成し、教材として活用する。 						
指導体制	特任助教とがん看護学領域教員が中心となり、高齢がん患者のケアに関わる修了生の専門看護師（老人看護、精神看護、在宅看護、家族看護等）と連携して指導体制を確立する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢がん患者の病院と在宅をつなぐ在宅療養支援コーディネーター ・ 訪問看護師の看護実践力の向上を推進するリーダー ・ 認定看護師、専門看護師教育課程等への進学 						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	高齢がん患者の看護に携わる看護師	0	8	8	8	8	32
							0
							0
							0
	計	0	8	8	8	8	32

教育プログラム・コースの概要

大学名等	高知県立大学大学院看護学研究科						
教育プログラム・コース名	インテンシブコースⅡ ～ライフステージの多様な新ニーズに応える看護の質向上を推進する看護師の養成～（インテンシブ）						
対象者	中国四国のがん看護に携わる看護師						
修業年限（期間）	1回～2回/年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージ毎やがんの特性を考慮した個別のがん医療や質の高いがん看護実践を推進していくうえで中心的存在となる看護職 ・がん医療、がん看護にコミットし、生涯にわたり自律した専門職としてがん看護の学習を続ける看護職 						
修了要件・履修方法	・年1～2回（2日間）のインテンシブコースⅡを受講する。参加者には本事業から参加証を発行する。						
履修科目等	5年間のテーマ、内容を決定し、参加者を募集する。 H29（案）：小児がんと看護に関するテーマを設定 H30（案）：AYA世代の人々とがん看護に関するテーマを設定 H31（案）：働く世代の人々とがん看護に関するテーマを設定 H32（案）：女性の健康とがん看護に関するテーマを設定 H33（案）：高齢者のがん看護に関するテーマを設定						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージを考慮した多様ながん看護の新ニーズに関するトピックス、最新知見や実践現場で看護師が困難を感じている看護現象や課題を取り上げる。 ・それぞれのテーマに強い最前線の高度看護実践師に講師依頼して、教育内容の質を保証する。 ・がんプロ修了生を講師として起用し、活躍の場を提供する。 						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・がん高度実践看護師WGの教員と講師が連携して教育効果を高める。 ・毎回、アンケートを実施して、成果を評価し、次年度の教育内容・方法を工夫する。 						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> ・中国四国内の保健医療福祉施設において、ライフステージやがんの特性を考慮したがん医療・看護の質向上に貢献することが期待できる。 ・ライフステージやがんの特性を考慮したがん看護について継続的に学習し、各施設にがん患者の新ニーズに対応していく推進者となることが期待できる。 ・認定看護師、専門看護師教育課程等への進学 						
受入開始時期	平成29年9月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	中国四国のがん看護実践に携わる看護師	50	50	50	50	50	250
							0
							0

							0
	計	50	50	50	50	50	250

教育プログラム・コースの概要

大学名等	徳島大学大学院医科学教育部 医学専攻
教育プログラム・コース名	がん薬物療法専門医養成コース
対象者	医科学教育部医学専攻 博士課程 大学院生
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	主要ながんに対する最新の薬物療法を行うのみならず、遭遇する頻度の低い希少がん、小児がん、AYA世代がんに対する専門的な診断及び治療にも十分知識を有する専門医を育成する。また、進行する高齢化社会を迎えるにあたり、高齢者のがん治療に十分精通した専門医を育成する。さらに、最近のがん薬物療法は遺伝子異常に基づく個別化治療に向かっていることから、がんの遺伝子異常と個別化治療にも十分精通した専門医を育成する。
修了要件・履修方法	共通コアカリキュラム4単位、がん専門医共通科目4単位、腫瘍内科専門医科目22単位を履修し、4年間の博士課程を修了する。また、この期間に行った研究を国際的な英語論文として発表し、大学院が行う学位審査を受け、合格すること。
履修科目等	<p><必修科目> 共通コアカリキュラム(4単位)(希少がん、小児がん、AYA世代がん、高齢者がん、ゲノム医学の基礎を組込む。また、実習0.5単位を含む) がん専門医共通科目(4単位)(希少がん、小児がん、AYA世代がん、高齢者がん、ゲノム医学を含む) <選択科目> 専門医科目12単位(ゲノム医療を含む)、演習科目10単位(希少がん、小児がん、AYA世代がんのいずれかを含む)</p>
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	本プログラムの特色は、主要ながんの薬物療法のみならず、中皮腫、脂肪肉腫、血管肉腫、横紋筋肉腫、ユーイング肉腫、骨肉腫などの希少がん、小児がん、AYA世代がんについても講義、演習、実習を行うことである。また、希少がんやAYA世代がん患者が直面する社会的問題、就職、就学を考えながら行う治療のワークショップや演習を取り入れる。さらに、各がん種の遺伝子異常に関する講演会、とくに国際的な講演会や研修会(講義)を開催し、遺伝子異常に基づいた個別化治療に精通したグローバルな医療人を育成する。
指導体制	丹黒章(食道乳腺甲状腺外科)、高山哲治(消化器内科学、腫瘍内科学)、西岡安彦(呼吸器膠原病内科)、苛原 稔(産婦人科)、金山博臣(泌尿器科)、西良浩一(整形外科)、渡辺浩良(小児科)、安倍正博(血液内科)、井本逸勢(人類遺伝学)

教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<p>本教育プログラムの修了者は、徳島県や他県の地域がん拠点病院に勤務し、地域におけるがん治療、とくに希少がん、小児がん、AYA世代がんの治療、高齢者がんの治療、などを実践する。また、徳島県のがん拠点病院である当院に勤務し、上記に加え、がんの遺伝子異常に基づいた個別化治療を推進する。さらに、がんプロコンソーシアム、国内または国際的な臨床試験に参加し、がん治療のエビデンスを構築する。</p>						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	3	3	3	3	3	15
							0
							0
							0
	計	3	3	3	3	3	15

教育プログラム・コースの概要

大学名等	徳島大学大学院医科学教育部医学専攻
教育プログラム・コース名	臨床腫瘍外科学コース (Surgical Oncology Course)
対象者	医科学教育部医学専攻 博士課程 大学院生
修業年限 (期間)	4年
養成すべき人材像	臨床腫瘍学に精通し、以下に挙げる資質を有する腫瘍外科医を養成する。①高齢者に優しい低侵襲手術・先進医療、ゲノム解析に立脚した手術適応（患者選択）や術前術後補助療法が施行できる。②高齢者に特有の併存疾患や術後合併症に対し十分な知識を有するとともに、適切な処置、心理的サポートや緩和医療を含めた全人的医療を実践し、包括的に高齢者に優しい安心・安全な医療を提供できる。
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通コアカリキュラム4単位、がん専門医共通科目4単位、腫瘍外科専門医科目22単位を履修し、4年間の博士課程を修了する。 ・ 博士課程で行った研究を英文論文にまとめ、国際的英文雑誌に投稿、受理された後に大学院が行う学位審査を受け、これに合格することにより博士号が授与される。
履修科目等	<p><必修科目> 研究方法論応用1単位、悪性腫瘍の管理と治療1単位、他4科目（2単位）</p> <p><選択科目> 主要演習科目4単位、専門科目12単位、研究演習6単位</p>
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	<p>プログラムの特色は、地方大学の特徴を生かして、ライフステージ、特に高齢者におけるがんの外科治療におけるプロフェッショナルを養成するものである。</p> <p>1. 高齢者に優しい低侵襲治療の革新的なシームレストレーニングシステム：スキルスラボ、H28年7月に開所した動物実験施設、西日本唯一の施設であるクリニカルアナトミーラボにおいて低侵襲手術や先進治療のトレーニングを行い、ベーシックトレーニングから実臨床での手術までのシームレスなトレーニングを行い、高齢者や希少がんに対する手術成績向上を目指した高難度手術技術習得を目指す。2. ICTを駆使した地域（僻地）の高齢者外科治療に特化した腫瘍外科医養成システム：ICT（e-ラーニング、双方向手術画像配信システムなど）を活用することにより、遠隔地で研修する大学院性でも臨床腫瘍学共通カリキュラムや手術画像をオンタイムで履修できる。3. 高齢者の肉体的・精神的苦痛に配慮したノンテクニカルスキルを重視するチーム外科医の養成システム：高齢者医療に精通した他職種医療人との交流により高齢者の肉体的・精神的苦痛を理解するノンテクニカルスキルを重視した、チーム医療を実践するための理論・方略を習得できる。また、コンソーシアムの大学間交流により技術の習得、向上、指導法の向上を図る。</p>

指導体制	<p>1. 直接指導：高齢者外科治療に精通する大学病院ならびに地域の基幹病院で働くスタッフからの指導。</p> <p>2. コンソーシアム内の外部講師による指導：中国四国がんプロコンソーシアム内の高齢者医療に精通した講師が指導（セミナーや手術指導）を行う。</p> <p>3. 国内外のエキスパートによる指導：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアムの他のコースと協力して、ゲノム解析の高齢者外科治療応用に関してゲノムサイエンスのエキスパートによるセミナーを行うとともに、高齢者がん患者の特性理解のためにアンチエイジングサイエンスのエキスパートによるセミナーを行う。 ・高齢がん患者の低侵襲手術エキスパートがセミナーや直接指導を行う。 						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<p>コース期間中に基本領域専門医資格を取得するとともに、可能であればサブスペシヤリティ領域専門医の最短取得を目指す。コース修了のキャリアパスは各診療科の構想に従うが、国内外の留学を経て、助教、准教授、教授などの指導者になることも可能である。また最先端の研究を継続したり、臨床医、特に地域、へき地の関連施設で高齢者のための低侵襲治療を行う腫瘍外科医としてさらなる研鑽を積むことも可能である。</p>						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	4	4	4	4	4	20
							0
							0
							0
	計	4	4	4	4	4	20

教育プログラム・コースの概要

大学名等	徳島大学大学院医科学教育部医学専攻						
教育プログラム・コース名	臨床腫瘍放射線医学コース (Clinical Oncology-radiotherapy)						
対象者	医科学教育部医学専攻 博士課程 大学院生						
修業年限 (期間)	4年						
養成すべき人材像	がん診療における放射線診断・治療の需要は増加しており、働きながら癌治療を受けられる治療の開発も求められる。オーダーメイド医療としてゲノム医療の需要と必要性も増加しており、そのためゲノム情報を反映する高度な放射線診断(radiogenomics)の開発臨床応用が課題となっている。これらの個別医療としてのradiogenomicsの応用とIVRも含めた放射線技術を用いた高精度な低侵襲診療を提供できる人材を輩出する。						
修了要件・履修方法	・本教育プログラム・コースで定める科目について、合計30単位以上を履修し、試験に合格すること。						
履修科目等	必須科目 研究方法論応用1単位、悪性腫瘍の管理と治療1単位、他4科目 (2単位) 選択科目 主要演習科目4単位、専門科目12単位、研究演習6単位						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	e-ラーニングを活用することにより、臨床腫瘍学共通カリキュラムを履修できる。大学間、他種医療人との交流によりチーム医療を実践について習得できる。ゲノム診断と定量的画像パラメーターの関連を通して、radiogenomicsの研究開発と臨床応用を行う。症例ライブラリーにより放射線治療計画に関するトレーニングを行い、実臨床に参加し、実践力を身に付けることで、次世代の放射線診断・治療医を育成する。						
指導体制	放射線治療に関して、生島仁史教授、古谷俊介講師、川中 崇講師 放射線診断に関して、原田雅史教授、岩本誠司講師、音見庸一講師が担当する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	放射線治療専門医、放射線診断専門医、核医学専門医、IVR専門医等を取得し、病院内のがん診療の高度専門医として診療・研究を行う。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	1	1	1	1	0	4
							0
							0
							0
	計	1	1	1	1	0	4

教育プログラム・コースの概要

大学名等	徳島大学大学院薬科学教育部薬学専攻						
教育プログラム・コース名	臨床腫瘍薬剤師コース (Clinical Oncology-Pharmacist)						
対象者	薬科学教育部薬学専攻 博士課程 大学院生						
修業年限(期間)	4年						
養成すべき人材像	がん領域で要求されるより専門性の高い技術と知識、特に臨床腫瘍学、がん薬物療法学に精通し、チーム医療を推進し、がん薬物療法の安全性の担保と最適化に寄与する人材。がん薬物治療の現場で生じる多様な問題に薬学的視点から対応できる研究実践能力と危機管理能力を有し、教育と研究に貢献できる人材。さらに、がんゲノム創薬等、ゲノム医療に必要な薬剤の開発にも寄与できる、創薬研究能力を有する人材。						
修了要件・履修方法	必修科目28単位、選択科目2単位以上、さらにアドバンスド科目6単位を履修することに加え、査読のある雑誌に投稿、受理された後に大学院が行う学位審査を受け、これに合格することにより博士号が授与される。						
履修科目等	<必修科目> 共通コアカリキュラム(2単位)、専門科目(がんチーム医療演習、がん薬物治療実践演習、課題演習等)(26単位)、計28単位 <選択科目> ゲノム創薬特論、医療系分野における知的財産額特論、等、14単位中2単位以上 <アドバンスド科目> がん緩和医療、がん治療各論、臓器別がん治療各論、等、6単位						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	同一キャンパス内に徳島大学病院があるため、入学条件として薬剤師免許を求め、病院の薬剤部で行っている化学療法業務に参加させることで、実践的な教育を行う体制を整えている。卒業要件として査読のある雑誌に投稿・受理を含めており、研究能力のある臨床腫瘍薬剤師の養成を担保している。						
指導体制	大学院生1名につき、主指導教員1名、副指導教員2名を定め(複数指導体制)、研究・教育の内容が偏らないように配慮している。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	現行のがん専門薬剤師の認定制度では「がん薬物療法に関する5年以上の履修歴」が要件となっていることから、本コース在籍中の取得は困難であるが、他の認定要件であるがん関連講演会・講習会への参加を促すため、それらの開催を通じてサポートを続ける。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	社会人大大学院生	1	1	1	1	1	5
							0
							0

							0
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	徳島大学大学院保健科学教育部保健学専攻
教育プログラム・コース名	高度実践がん看護学コース
対象者	保健科学教育部保健学専攻 博士前期課程 看護学領域 大学院生
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	現在の教育目標であるケアとキューを統合した看護実践力の育成に加えて、ライフステージの多様なニーズを重要視し、がん治療・療養過程にある人々のQOL向上のための統合的継続支援ができる人材養成をめざす。特に、脆弱な要素をもつ高齢がん患者の意思決定支援やQOLの維持に高い判断力や組織的な問題解決力を持った人材を育成する。また、社会的役割が拡大する時期にある若年がん患者のセルフケアを促進しその人らしい日常性構築に向けてエンパワーできる支援力を持った人材を育成する。
修了要件・履修方法	必修科目34単位と選択科目8単位以上の合計42単位以上を履修し、修士論文学位審査に合格すること。社会人学生も履修できるよう夜間授業を開講し、長期履修制度の活用により、仕事との両立ができるよう支援する。
履修科目等	<p><必修科目>ヘルスアセスメント特論（2単位）、病態生理学特論（2単位）、臨床薬理学特論（2単位）、臨床腫瘍学特論（2単位）、ストレス緩和ケア看護学特論Ⅰ（2単位）、ストレス緩和ケア看護学特論Ⅱ（2単位）、がん看護学特論Ⅰ（2単位）、がん看護学特論Ⅱ（2単位）、がん看護学演習（4単位）、がん看護学実習Ⅰ（3単位）、がん看護学実習Ⅱ（2単位）、がん看護学実習Ⅲ（3単位）、がん治療援助論実習（2単位）、特別課題研究（4単位）</p> <p><選択科目>看護教育学（2単位）、看護管理学（2単位）、看護研究方法論（2単位）、コンサルテーション論（2単位）、看護倫理（2単位）</p>
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がん患者の健康問題やニーズはライフステージにより異なり、その特徴を踏まえた支援が重要である。本教育内容は、ライフステージに応じた発達課題や身体的・心理的・社会的特徴を踏まえた多様性を考慮した支援を牽引できる人材養成をめざしている点が特徴である。特に、今後も増加が推測される高齢がん患者と社会的に重要な役割をもつ若年がん患者に焦点を当てる。
指導体制	がん看護学を専門領域とする教授1名、准教授1名、助教1名、および呼吸器外科学を専門とする教授1名による専任教員に加えて、非常勤（がん看護専門看護師9名、がん診断・治療を専門とする医師4名、薬理学教授1名、臨床薬剤師1名等）により指導体制を形成する。実習は、がん専門病院およびがん診療連携拠点病院で行う。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本教育プログラム修了者は、がん看護専門看護師の資格認定を受けた後、がん専門病院やがん診療連携拠点病院を中心にがん看護専門看護師として勤務するとともに、施設内外の教育活動を通してがん看護の質向上に寄与する。また、実習指導者や非常勤講師として大学院におけるがん看護専門看護師の育成に当たる。
受入開始時期	平成29年6月

受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護学領域 大学院生	1	2	2	2	2	9
							0
							0
							0
	計	1	2	2	2	2	9

教育プログラム・コースの概要

大学名等	徳島大学大学院栄養生命科学教育部
教育プログラム・コース名	臨床腫瘍栄養学コース（博士前期課程・博士後期課程）
対象者	栄養生命科学教育部人間栄養科学専攻 大学院生
修業年限（期間）	博士前期課程2年、博士後期課程3年
養成すべき人材像	臨床腫瘍栄養学に精通すると共に研究者の視点を持って栄養ケアマネジメントに取り組むだけでなく、次世代のがん栄養専門師の育成、臨床腫瘍栄養学における諸問題の解決、新たな栄養管理プロトコルの開発ができる医療教育・研究人を育成する。海外の施設で高度な臨床腫瘍学を学び国際的に活躍できる人材を育成する。
修了要件・履修方法	<p>【博士前期課程】全専攻系共通カリキュラム科目4単位、臨床腫瘍栄養学専門科目18単位、臨床腫瘍栄養学研究演習12単位の合計34単位を履修し、2年間の博士前期課程を修了する。博士前期課程で行った研究を論文にまとめ、大学院が行う学位審査を受け、これに合格することにより修士（栄養学）の学位が授与される。</p> <p>【博士後期課程】全専攻系共通カリキュラム科目4単位、臨床腫瘍栄養学専門科目12単位、臨床腫瘍栄養学研究演習16単位の合計32単位を履修し、4年間の博士後期課程を修了する。博士後期課程で行った研究を英語論文にまとめ国際誌にて公表した後、大学院が行う学位審査を受け、これに合格することにより博士（栄養学）の学位が授与される。</p>
履修科目等	<p>【博士前期課程】 必須科目 臨床腫瘍栄養学2単位、臨床腫瘍栄養学各論2単位、他3科目（6単位） 選択科目 全専攻系共通カリキュラム科目4単位、臨床腫瘍栄養学専門科目（がん栄養学演習など）8単位、がん栄養学研究演習12単位</p> <p>【博士後期課程】 必須科目 腫瘍制御栄養学1単位、腫瘍栄養学各論2単位、他5科目（11単位）、全専攻系共通カリキュラム科目4単位 選択科目 臨床腫瘍栄養学専門科目8単位、臨床腫瘍栄養学研究演習8単位</p>
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	従来のがん栄養に関する講義の他、内容を見直し、小児、AYA世代、高齢者などライフステージ別のがん栄養管理に関する講義を実施する。e-ラーニングを活用することにより、社会人大大学院生でも必要な科目を履修できる。カンサーボードへ参加するなど、大学病院などでの実習および演習を通じた他職種医療人養成コースとの共育により、がんチーム医療の実践について習得できる。修士論文ならびに博士論文の作成を通じて研究者としての素養を修得させる。
指導体制	徳島大学大学院医歯薬学研究部教員、中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム教員など

教育プログラム・ コース修了者の キャリアパス構想	がん診療拠点病院への就職を推奨するとともに、がん病態栄養専門管理栄養士の資格取得を目指す。将来は、地域のがん診療において専門的な立場で指導できる人材として活躍してもらうほか、管理栄養士養成施設の教員として次世代の人材育成に取り組んでもらう。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	博士前期課程	6	6	6	6	6	30
	博士後期課程	2	2	2	2	2	10
							0
							0
	計	8	8	8	8	8	40

教育プログラム・コースの概要

大学名等	徳島大学大学院 保健科学教育部 保健学専攻						
教育プログラム・コース名	医学物理学コース						
対象者	保健科学教育部保健学専攻 博士前期課程 大学院生						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	がんの放射線治療技術に精通し、これに関連する医学分野および物理学分野の専門知識を持ち、放射線治療における品質保証・品質管理を実施できる人材。および、希少がん及び小児がん、高齢者がんなどを含めがんの画像診断技術に精通し、MRIもしくは核医学分野の専門知識を持ち、がんの画像診断における撮影技術の標準化や高度先進医療への貢献ができる人材。						
修了要件・履修方法	選択科目として全専攻系共通カリキュラム4単位、専門科目14単位以上を履修させ、必修科目は医用情報科学特別研究12単位とし、特別研究を修士論文にまとめ、学位を取得させる。						
履修科目等	<p><必修科目> 医用情報科学特別研究（12単位）</p> <p><選択科目> 全専攻系共通カリキュラム4単位、専門科目14単位以上で、放射線治療品質管理学特論2単位など放射線治療技術に関連する科目、もしくは、代謝・機能画像情報解析学2単位、代謝・機能画像情報解析学特論演習4単位、分子情報画像解析学2単位、分子情報画像解析学特論演習4単位など画像診断技術に関連する科目</p>						
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	共通科目のみならず専門科目にもe-ラーニングを活用することにより、科目の履修を容易とする。放射線治療や画像診断に関連する分野のカリキュラムを充実させる。大学間、他種医療人との交流によりチーム医療の実践について習得させる。希少がんなどに対応させるため岡山大学とも連携し、PHITS (Particle and Heavy Ion Transport code System) セミナーなどを開催し、粒子線治療に関連した物理教育も提供する。						
指導体制	徳島大学大学院保健科学研究部の複数教員による指導体制、およびコンソーシアム内の同一コース設定大学間での共同指導体制						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	修士修了後、博士課程への進学もしくは総合病院勤務し、専門職認定資格取得後、専門技術者として医療機関勤務もしくは教育・研究者として大学その他研究所などに勤務する。						
受入開始時期	平成29年6月						
	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計

受入目標人数	一般および 社会人大学院 生	2	2	2	2	2	10
							0
							0
							0
	計	2	2	2	2	2	10

教育プログラム・コースの概要

大学名等	徳島大学大学院医科学教育部 医学専攻						
教育プログラム・コース名	高齢者がん・希少がん・小児 AYA世代がんを含むがん薬物療法のインテンシブコースーがんの遺伝子異常に基づいた治療の進歩ー（インテンシブ）						
対象者	がん治療に携わる医師、薬剤師						
修業年限（期間）	5 時間						
養成すべき人材像	がんの診断と治療、とくに高齢者のがん、希少がん及び小児・AYA世代のがんを速やかに診断し、適切に治療できる専門医を育成する。また、がんの遺伝子異常に精通し、それらに基づいた個別化治療を考えて実践できる医師を育成する。さらに、これらのがんの治療薬に精通した薬剤師を育成する。						
修了要件・履修方法	インテンシブコースに参加し、本コースの最後まで聴講することにより修了書を取得すること。						
履修科目等	高齢者におけるがんの薬物療法、希少がん、小児がん、AYA世代がんの診断と治療、遺伝子異常に基づいた個別化治療、主要がんの最新薬物療法など						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本コースは、高齢者のがん、軟部組織腫瘍などの希少がん、白血病、ウィルムス腫瘍などの小児がん、胚細胞腫瘍、脳腫瘍などのAYA世代がんについて診断から治療、さらには集学的治療に至るまでを講義する新しいコースである。また、主要がんを初めとする様々ながんにおいて遺伝子異常に基づく個別化治療（ゲノム医療学）についても最新の講義を行う。						
指導体制	丹黒章(食道乳腺甲状腺外科)、高山哲治(消化器内科学、腫瘍内科学)、西岡安彦(呼吸器膠原病内科)、苛原 稔(産婦人科)、金山博臣(泌尿器科)、西良浩一(整形外科)、渡辺浩良(小児科)、安倍正博(血液内科)、井本逸勢(人類遺伝学)						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	がん薬物療法専門医、がん治療認定医、がん専門薬剤師などの資格を取得し、各々が勤務する病院で質の高いがん治療を実施する。						
受入開始時期	平成 2 9 年 6 月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	50	50	50	50	50	250
	薬剤師	5	5	5	5	5	25
							0
							0
	計	55	55	55	55	55	275

教育プログラム・コースの概要

大学名等	徳島大学大学院医科学教育部医学専攻						
教育プログラム・コース名	臨床腫瘍・緩和地域医療学コース(インテンシブ) (Clinical Oncology and palliative care -intensive course for community health)						
対象者	地域で働くがん治療に携わる医師、薬剤師、看護師、医学物理士、栄養士、その他の地域医療スタッフ。						
修業年限(期間)	5時間						
養成すべき人材像	がん治療やその管理に精通した医師、薬剤師、看護師、医学物理士、栄養士などの医療スタッフを育成する。とくに、小児がん・AYA世代がん、高齢者がん、希少がんのがん診療連携、がん緩和ケアの地域連携を実施し推進できる医療スタッフを育成する。						
修了要件・履修方法	本インテンシブコースに参加し、最後まで聴講することにより履修証明を受ける。						
履修科目等	① がん薬物療法、外科治療、放射線治療、がん看護、がん分子標的治療薬、栄養管理、緩和医療に関するup-to-date。② がん診療連携・地域医療に関する内容。③小児がん・AYA世代がん、高齢者がん、希少がんに関する内容。						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	各がん専門領域の最新の知見、小児がん・AYA世代がん、高齢者がん、希少がんに関する理解、緩和ケア、がん診療連携、がん在宅介護、などがん診療連携・がん治療の地域連携、などに関連する内容のセミナーや講演会を行う。職種を越えた交流の場となり、地域がん医療の活性化を目指す。						
指導体制	がん診療に関わる診療科、および徳島大学病院がん診療連携センターに属する医師、看護師、薬剤師、社旗福祉士等のメディカルスタッフが指導する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	小児がん・AYA世代がん、高齢者がん、希少がんを含むがんの診療連携・地域医療を実践する。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	50	50	50	50	50	250
	薬剤師	5	5	5	5	5	25
	看護師	5	5	5	5	5	25
	栄養士	5	5	5	5	5	25
	計	65	65	65	65	65	325

教育プログラム・コースの概要

大学名等	徳島大学大学院栄養生命科学教育部						
教育プログラム・コース名	臨床腫瘍栄養学コース（インテンシブ）						
対象者	がん病態栄養専門管理栄養士、がん専門医療スタッフ						
修業年限（期間）	3年						
養成すべき人材像	がん患者の病態・治療を踏まえた栄養代謝を理解し、個々の患者に適切な栄養管理を推進する中心的な存在となるがん病態栄養専門管理栄養士、がん医療に関わる管理栄養士ならびに医療スタッフ						
修了要件・履修方法	徳島大学で開催するがん栄養セミナー（集中講義）を受講し、履修証明を受ける。3年分を受講した者に、インテンシブコース履修証を発行する。						
履修科目等	がん患者の栄養代謝、栄養アセスメント、静脈栄養管理、経腸栄養管理、食事管理法、がん栄養疫学、ライフステージ別がん栄養管理、など						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がん栄養に関する最新の知見のみならず、栄養代謝や栄養アセスメントなどの基礎的な部分から、病態別の栄養管理まで毎年異なるテーマで実施する。また、高齢者、AYA世代、小児などライフステージ毎の栄養管理についても随時取り上げる。症例をベースにした実践的な講義も取り入れるほか、臨床現場で活躍するがん病態栄養専門管理栄養士による資格取得やキャリアパス形成の支援を行う。						
指導体制	徳島大学大学院医歯薬学研究部教員、中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム教員、その他がん診療連携拠点病院などの教員、がん病態栄養専門管理栄養士、医療スタッフなど						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	がん栄養セミナー参加者には、一般社団法人日本病態栄養学会よりがん病態栄養専門管理栄養士の受験および更新のための「がん病態栄養セミナー」1回分（5単位）を認定されている。当コースを履修することで将来のがん病態栄養専門管理栄養士の資格取得、資格更新に資するものとする。修了者には、がん患者の栄養管理の中心的役割を果たす人材として、また次世代の指導者としての活躍が期待される。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	管理栄養士	0	100	100	100	100	400
	その他の医療スタッフ	0	10	10	10	10	40
							0
							0
	計	0	110	110	110	110	440

教育プログラム・コースの概要

大学名等	徳島文理大学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程						
教育プログラム・コース名	臨床腫瘍薬剤師コース (Clinical Oncology-Pharmacist)						
対象者	大学院薬学研究科薬学専攻博士課程大学院生						
修業年限 (期間)	4年						
養成すべき人材像	本コースが目指す人材像は、がん薬物療法を支援するために、フィジカルアセスメントによる副作用評価ができ、薬物治療に伴う副作用を初期発見し対応できる能力と共に、がん基礎研究能力、臨床研究能力を有する薬剤師である。						
修了要件・履修方法	必修専門科目16単位、選択科目18単位 (9科目) 以上、計34単位以上を習得し、博士論文審査及び最終試験に合格すること。博士学位論文の基礎となる報文は審査制度のある英文学術雑誌 (ピア・レビューあり) に1編以上印刷公表されていること。						
履修科目等	<必修科目> がん臨床薬学演習 (4単位)、がん薬学専門研究 (12単位) <選択科目> 臨床実践薬学、臨床薬物動態学、薬剤疫学、医療統計学、分子免疫制御学、分子免疫制御学、ゲノム生物科学、天然医薬資源科学、レギュラトリーサイエンス、メディシナルケミストリー、各2単位全50科目から18単位 (9科目) 以上履修する。						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	高齢者医療のみならず、がん治療においても地域包括ケアによりがん患者を支援する体制の構築が急務である。地域医療の先導的役割を担う薬剤師として、がん薬物療法、緩和薬物療法に関する知識と共に、フィジカルアセスメント技能を取得し、治療の有効性及び副作用評価等の在宅療養支援能力を習得できる。						
指導体制	1年次、選択専門科目を履修、文献検索・紹介および発表法と論文作成法等を主体とする「薬学演習」及び「薬学専門研究」を開始。2年次、選択専門科目を履修、「薬学演習」及び「薬学専門研究」を継続履修し、研究の途中成果をシンポジウム、学会で発表。3年次、研究室活動を継続。4年次では、研究成果を審査過程がある学術論文誌に投稿。博士論文の内審査、博士学位論文を提出し、本審査 (最終試験) を受ける。香川大学医学部附属病院、香川県立保健医療大学 (看護学科、臨床検査学科) と「高度な医療人養成のための地域連携型総合医療教育研究コンソーシアム」を形成しており、臨床実習と同時に医薬共同研究を実践する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	EBM研究や論文作成能力に秀でた、院内業務及び在宅支援のリーダーとなる資質を有し、将来的にはがん専門薬剤師 (日本医療薬学会)、緩和薬物療法認定薬剤師 (日本緩和医療薬学会)、がん薬物療法認定薬剤師 (日本病院薬剤師会) の取得が見込まれる。						
受入開始時期	平成29年9月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	1	1	1	1	1	5
							0
							0

							0
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	広島大学大学院医歯薬保健学研究科						
教育プログラム・コース名	がん専門医養成コース						
対象者	医歯薬保健学研究科大学院生（医歯薬学専攻）						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	ライフステージに応じたがん対策が求められる中で、小児やAYA世代および高齢者に対するがん治療・ゲノム医療・放射線治療・化学療法・外科療法・緩和医療を中心に高度な技術と知識を有するがん専門医を養成する。						
修了要件・履修方法	必修科目12単位、選択科目18単位以上、計30単位以上を修得し、かつ研究指導を受けた上、論文の審査及び試験に合格すること。						
履修科目等	<必修科目>臨床腫瘍学総論（2単位）がん診療各論（2単位）臨床研究の基礎および実践（2単位）集学的がん治療の実際（2単位）緩和ケアカンファレンス（2単位）生命・医療倫理特論（2単位） <選択科目>がん化学療法演習（2単位）がん放射線療法演習（2単位）婦人科がん治療演習（2単位）乳がん治療演習（2単位）がん緩和医療演習（2単位）腫瘍外科治療演習（2単位）小児がん治療演習（2単位）ほか98科目						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	高度がん医療人材を養成するため、複数診療科の医師や薬剤師、看護師など多職種が講義や実習などを行い、小児やAYA世代および高齢者に対する最新治療を含めたがん医療に習熟し、集学的医療を提供できる人材を養成する教育内容を備えている。						
指導体制	小児がんやゲノム医療に習熟するため、複数診療科において指導を受けることによって多数の症例を経験できる体制を整えている。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	がん医療に特化した教育プログラムにより、高度な技術と知識を身に付けたがん専門医療人を養成することで、病院ならびに地域医療レベルでの新しい世代の幅広いがん対策の向上に繋がっていく。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生（医歯薬学専攻）	10	10	10	10	10	50
							0
							0
							0
	計	10	10	10	10	10	50

教育プログラム・コースの概要

大学名等	広島大学大学院医歯薬保健学研究科						
教育プログラム・コース名	がん専門薬剤師養成コース						
対象者	医歯薬保健学研究科大学院生（医歯薬学専攻）						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がん及び緩和薬物療法に関する高度な薬学的専門知識を有し、患者のライフステージに応じた標準治療に加えオーダーメイドのがん薬物療法を提供できる人材を養成する。また、がん薬物療法の基礎と実践の融合を図り、新しい薬物療法レジメンの開発や既存レジメンの改善等に貢献できる臨床研究能力を備えた人材を育成する。						
修了要件・履修方法	必修科目22単位、選択科目8単位以上、計30単位以上を修得し、かつ研究指導を受けた上、論文の審査及び試験に合格すること。						
履修科目等	<必修科目>臨床腫瘍学総論（2単位）、がん診療各論（2単位）、病院薬剤学特別演習（4単位）、病院薬剤学特別実験（12単位）、生命・医療倫理特論（2単位） <選択科目>治療薬効学特別演習（4単位）、ほか5科目						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	様々ながん種の薬物療法の講義、演習および症例検討を通して、患者に最適ながん・緩和薬物療法を実践可能な薬剤師としての基礎力を習得できる。症例検討を通してがん臨床における薬学的問題を抽出し、それを解決するための研究に取り組むことができる。						
指導体制	多数の症例を経験できるように、広島大学病院薬剤部のがん専門薬剤師、複数診療科の医師から指導を受ける体制を整えている。また、研究は指導教員グループがサポートする。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	博士（薬学）の学位が得られます。修了後に症例経験を積むことで、在学中に実施した学会発表や論文発表実績を利用して、がん薬物療法認定薬剤師、がん専門薬剤師および緩和薬物療法認定薬剤師の資格を取得することができ、がん・緩和薬物療法分野における活躍が期待される。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生（医歯薬学専攻）	1	1	1	1	1	5
							0
							0
							0
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	広島大学大学院医歯薬保健学研究科						
教育プログラム・コース名	がん看護高度実践看護師養成コース						
対象者	医歯薬保健学研究科大学院生（保健学専攻）						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	がんに関する高度な専門的知識を有し、的確な臨床判断に基づきがん患者と家族への高度な看護を実践することができる人材を養成する。特に本コースでは、ライフステージに応じたがん看護実践を開発推進する人材を養成する。						
修了要件・履修方法	必修科目40単位、選択科目2単位以上、計42単位以上を修得し、かつ研究指導を受けた上、論文の審査及び試験に合格すること。						
履修科目等	<必修科目> 看護理論（2単位）、看護研究（2単位）、コンサルテーション論（2単位）、看護倫理（2単位）、病態生理学（2単位）、フィジカルアセスメント（2単位）、臨床薬理学（2単位）、がん看護学特論1～5（各2単位）、がん看護学演習1～2（各2単位）、がん看護学実習1～5（各2単位）、がん看護学課題研究（2単位） <選択科目> 生命・医療倫理学（2単位）、ほか13科目						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	ライフステージに応じたがん看護実践を開発推進する能力を養うため、壮年期/老年期のがん患者に特有の課題に焦点を当て、患者の最良のQOLを実現するために必要な高度ながん看護実践能力を身に付けることを目指した講義、演習を行う。特に、治療・療養過程において、壮年期/老年期のがん患者が行う意思決定を支援し、多様な苦痛を予防・緩和するための知識と技術を習得することを目的とした講義と演習を組み込む。						
指導体制	指導教員（教授）1名が学生の指導に責任を持つ。医師、がん看護専門看護師、他大学の教員が高度に専門的な指導を行うことができる体制を組み、指導教員は、授業・演習を担当する講師の連絡調整、学生と講師の仲介を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	がん患者と家族のニーズに応じた高度な看護実践により、患者・家族のQOL維持・向上に寄与する。また、医療・看護職者への教育相談活動や医療提供システムの調整を通じ、がん医療全体の質向上も期待される。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生（保健学専攻）	1	1	1	1	1	5
							0
							0
							0
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	広島大学大学院医歯薬保健学研究科						
教育プログラム・コース名	医学物理士養成コース						
対象者	医歯薬保健学研究科大学院生（医歯科学専攻）						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	コンベンショナルなX線・電子線による放射線治療だけでなく、希少がんである肉腫や小児がんにも有効とされる陽子線治療に関する物理学の専門知識を身に付け、さらに、ゲノム解析により放射線治療をオーダーメイド提供する際に物理学的見地から安全確保をした上で最適化し、医療現場で集学的なチーム医療を提供できる人材を育成する。						
修了要件・履修方法	必修科目23単位、選択科目7単位以上、計30単位以上を修得し、かつ研究指導を受けた上、論文の審査及び試験に合格すること。						
履修科目等	<必修科目>生命・医療倫理学（2単位）、放射線診断物理学（1単位）、放射線治療物理学（2単位）、核医学物理学（1単位）、放射線診断学・核医学（1単位）、放射線腫瘍学（2単位）、放射線治療物理学演習（2単位）、放射線計測学演習（2単位）、画像診断物理学演習（2単位）、医歯科学特別研究（放射線腫瘍学）（4単位）、ほか2科目 <選択科目>人体解剖学実習（2単位）、病因病態学（2単位）、ほか15科目						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	粒子線治療に関連する物理学分野のカリキュラムを充実させて、各種医療機関、多職種との交流により、最新のチーム医療の実践について習得できる。また、放射線治療関連の各種臨床試験における品質管理を学ぶことで、研究事務局をサポートできる人材の排出を目指す。						
指導体制	広島大学病院だけでなく、岡山県津山市の「がん陽子線治療センター」、広島市の「広島がん高精度放射線治療センター」と連携し、様々な症例を経験できるように体制を整えている。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	高精度X線治療や陽子線治療を始め疼痛緩和照射などの一般的な放射線治療を物理学的見地から幅広くサポートできる人材育成を行うことで、放射線治療の臨床現場だけでなく、広く臨床試験や基礎研究の現場での活躍が期待できる。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生（医歯科学専攻）	1	1	1	1	1	5
							0
							0
							0
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	広島大学大学院医歯薬保健学研究科						
教育プログラム・コース名	がん専門医養成コース（インテンシブ）						
対象者	がん医療に携わる医師						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がん医療に携わる医師を対象として、放射線治療・化学療法・外科療法・緩和医療を中心により専門性の高いがん治療医を養成する。						
修了要件・履修方法	各種講演会・研修会に参加する。またテレビ会議システムを利用して、広島大学で開催されるがん診療ボードに出席する。						
履修科目等	化学療法、放射線療法、ゲノム医療、がん看護、緩和医療など						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	複数診療科の医師・歯科医師が参加する講演会やがん診療ボードなど、優秀な専門医療人を育てる教育内容を備えている。						
指導体制	様々な分野における症例を数多く紹介し、専門知識を修得できるような体制を整えている。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	がん医療に特化した教育プログラムによりがん専門医療人の育成に貢献し、集学的医療の実践など地域のがん医療の向上に貢献する。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	がん医療に携わる医師	200	200	200	200	200	1,000
							0
							0
							0
	計	200	200	200	200	200	1,000

教育プログラム・コースの概要

大学名等	松山大学大学院医療薬学研究科（博士課程）						
教育プログラム・コース名	がん専門薬剤師養成コース						
対象者	大学院医療薬学研究科博士課程大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・がん薬物療法に関して最新の知識・技術を備え、またがん医療に精通し、がん患者およびその家族に貢献でき、チーム医療の担い手・リーダーとなるべきがん専門薬剤師。 ・がんに関する臨床研究や基礎的研究を通じて、がん専門薬剤師の資格を取得する際に必要となる、研究発表や論文作成の能力及び臨床的な問題解決の能力を身に付けた研究者。 						
修了要件・履修方法	4年以上在学し、所定の32単位以上を取得するとともに、学位論文を提出してその審査に合格すること。（ただし、3年次の早期修了も認める。）						
履修科目等	必修科目(24単位)：薬学特別研究(16単位)，病院研修(がんプロ)(4単位)，腫瘍学特論(2単位)，がん薬物治療学特論(2単位)。 選択科目(8単位以上)：がんのベーシックサイエンスと臨床薬理学(1単位)，がん治療各論(1単位)，科学英語特論(1単位)他。						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	愛媛県の基幹病院において、「希少がん及び小児がんなどの治療」に関して薬学的介入・提案あるいは緩和医療を含むがん薬物医療全般にわたり実績を積める内容の研修(実習)科目を提供する。なお、本研修には、がん専門薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師の資格をもつ薬剤師が講師に加わる。希望者には、愛媛大学医学部「がん専門医療人材」養成コースで開講予定のがん患者が求める医療に接する体験実習・緩和医療学演習を提供する。						
指導体制	研究指導教員が大学院生の指導責任者となる。一方、大学院生は毎年5月に開催される大学院研究成果報告会での口頭発表と研究進捗状況報告書の提出が求められる。本報告会において、研究成果を大学院教員と討論することにより博士論文の研究がより高度に進展するよう研究科全体で支援する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	チーム医療の担い手・リーダーとしての指導的立場のがん専門薬剤師、あるいは臨床的な問題解決能力を身に付けた大学教員となる。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	0	1	1	1	1	4
							0
							0
							0
	計	0	1	1	1	1	4

教育プログラム・コースの概要

大学名等	松山大学大学院医療薬学研究科（博士課程）						
教育プログラム・コース名	がん薬物治療スキルアップコース（インテンシブ）						
対象者	愛媛県内でがん薬物治療に携わる薬剤師						
修業年限（期間）	30時間						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・がん薬物療法に関する最新の知識や技術を修得し、またがん医療全般に精通した薬剤師。 ・がん患者およびその家族に貢献でき、チーム医療の担い手・リーダーとなるべき医療人。 						
修了要件・履修方法	15日間の教育プログラム内容を履修し、8割以上の参加者は修了時に、本事業から認定証を発行する。						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院医療薬学研究科(博士課程)がん専門薬剤師養成コース開講科目（e-learningを含む） ・松山大学大学院医療薬学研究科が提供する「最新のがん薬物治療」に関する講演会 ・愛媛大学医学部で開講予定のがん患者が求める医療に接する体験実習・緩和医療学演習 						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がんに対する薬物療法・緩和療法を集学的に理解し、この履修を通じ、がん専門薬剤師となることを最終目標とする。中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムが提供するe-learning教材等を活用することにより、次世代のがん治療薬・診断薬に関する講義を提供する。また、希望者には、愛媛大学医学部「がん専門医療人材」養成コースで開講予定のがん患者が求める医療に接する体験実習・緩和医療学演習を提供する。						
指導体制	「がん専門薬剤師養成コース」担当教員1名がアドバイザーとなり、指導する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	チーム医療の担い手・リーダーとしての指導的立場のがん専門薬剤師として地域医療に貢献できる薬剤師になる。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	薬剤師	0	3	3	3	3	12
							0
							0
							0
	計	0	3	3	3	3	12

教育プログラム・コースの概要

大学名等	山口大学大学院医学系研究科 医学専攻						
教育プログラム・コース名	外科系腫瘍専門医コース						
対象者	医学系研究科 大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	専門的な知識と技術、研究能力並びに豊かな人間性と高度な倫理観を備え、多様化するがん手術に対応するために、高度ながん手術が実施でき、かつ研究マインドを持った腫瘍外科専門医を養成する。						
修了要件・履修方法	3年次または4年次までに所定の30単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、研究科の行う学位審査に合格すること。						
履修科目等	<必修科目> 研究方法論応用1単位、悪性腫瘍の管理と治療1単位、ほか4科目2単位、がん専門医共通科目4単位 <選択科目> 腫瘍演習科目4単位、専門科目12単位、研究演習6単位						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	e-ラーニングを活用することにより、必修科目を履修することができる。また、多種職の合同演習を行い、他大学の大学院生との交流を持つとともに、チーム医療の重要性を学ぶことができる。 さらに、修了要件の他にゲノム医療、小児がん、AYA世代がん、高齢者がんの4つの領域に対応した副科目を展開し、体系的な教育コースを構築することで、各領域における先進的な知識と技術を修得することができるようになっている。						
指導体制	指導教官が指導し、各科目担当教官が成績評価を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	各地域のがん診療拠点病院等でがん診療の質的向上や均てん化に寄与するとともに専門性を持った高度な医療を提供する。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学系研究科 大学院生	2	3	2	3	2	12
							0
							0
							0
	計	2	3	2	3	2	12

教育プログラム・コースの概要

大学名等	山口大学大学院医学系研究科 医学専攻						
教育プログラム・コース名	内科系腫瘍専門医コース						
対象者	医学系研究科 大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	専門的な知識と技術、研究能力並びに豊かな人間性と高度な倫理観を備え、多様化するがん治療に従事するプロフェッショナルの一員として、がんを横断的・集学的に診療し、標準的化学療法が施行でき、的確に臨床試験が実施できる腫瘍内科専門医を養成する。						
修了要件・履修方法	3年次または4年次までに所定の30単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、研究科の行う学位審査に合格すること。						
履修科目等	<必修科目> 研究方法論応用1単位、悪性腫瘍の管理と治療1単位、ほか4科目2単位、がん専門医共通科目4単位 <選択科目> 腫瘍演習科目4単位、専門科目12単位、研究演習6単位						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	eラーニングを活用することにより、必修科目を履修することができる。また、多種職の合同演習を行い、他大学の大学院生との交流を持つとともに、チーム医療の重要性を学ぶことができる。 さらに、修了要件の他にゲノム医療、小児がん、AYA世代がん、高齢者がんの4つの領域に対応した副科目を展開し、体系的な教育コースを構築することで、各領域における先進的な知識と技術を修得することができるようになっている。						
指導体制	指導教官が指導し、各科目担当教官が成績評価を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	各地域のがん診療拠点病院等でがん診療の質的向上や均てん化に寄与するとともに専門性を持った高度な医療を提供する。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学系研究科 大学院生	1	1	1	1	1	5
							0
							0
							0
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	山口大学大学院医学系研究科 医学専攻						
教育プログラム・コース名	放射線腫瘍専門医コース						
対象者	医学系研究科 大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	専門的な知識と技術、研究能力並びに豊かな人間性と高度な倫理観を備え、放射線腫瘍学に精通し、今後いっそうニーズの高まる高精度治療を支え、高度な放射線診断に加え、高精度の低侵襲治療を提供できる人材を養成する。						
修了要件・履修方法	3年次または4年次までに所定の30単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、研究科の行う学位審査に合格すること。						
履修科目等	<必修科目> 研究方法論応用1単位、悪性腫瘍の管理と治療1単位、ほか4科目2単位、がん専門医共通科目4単位 <選択科目> 腫瘍演習科目4単位、専門科目12単位、研究演習6単位						
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	e-ラーニングを活用することにより、必修科目を履修することができる。また、多種職の合同演習を行い、他大学の大学院生との交流を持つとともに、チーム医療の重要性を学ぶことができる。 さらに、修了要件の他にゲノム医療、小児がん、AYA世代がん、高齢者がんの4つの領域に対応した副科目を展開し、体系的な教育コースを構築することで、各領域における先進的な知識と技術を修得することができるようになっている。						
指導体制	指導教官が指導し、各科目担当教官が成績評価を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	各地域のがん診療拠点病院等でがん診療の質的向上や均てん化に寄与するとともに専門性を持った高度な医療を提供する。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学系研究科 大学院生	0	1	0	1	0	2
							0
							0
							0
	計	0	1	0	1	0	2

教育プログラム・コースの概要

大学名等	山口大学大学院医学系研究科 保健学専攻						
教育プログラム・コース名	がん看護専門看護師養成コース						
対象者	医学系研究科 大学院生						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	がんの予防や健康教育とともに、がんの治療に伴う看護および治療後の生活調整を支援し、がん患者の体験する症状、精神的苦痛の緩和や、がん終末期ケアが提供できるケアとキュアを融合した高度な能力を習得させ、がん患者および家族のQOL維持・向上に働きかけるケアを実践できる専門看護師を養成する。がん罹患する人々は、小児から高齢者と幅広く、治療の場も病院から在宅へ移行してきているため、それぞれの世代に応じたトータルペインや治療を習得し、在宅医療へ貢献できるような専門看護師を養成する。						
修了要件・履修方法	必須科目38単位以上を修得し、大学院が行う学位審査に合格すること。						
履修科目等	<p><必修科目></p> <p>医療倫理学特論(2単位)、看護学研究方法特論(2単位)、看護管理学特論(2単位)、看護理論特論(2単位)、看護教育学特論(2単位)、がん病態生理学特論(2単位)、がん看護理論特論(2単位)、がん看護援助特論Ⅰ(2単位)、がん看護援助特論Ⅱ(2単位)、がん緩和ケア学特論Ⅰ(2単位)、がん緩和ケア学特論Ⅱ(2単位)、がんターミナル看護学特論(2単位)、がん看護学実習Ⅰ(2単位)、がん看護学実習Ⅱ(4単位)、特別研究(10単位)</p> <p>今後、臨床薬理学特論(2単位)、フィジカルアセスメント(2単位)、がん緩和ケア学特論Ⅲ(2単位)、がん看護学実習Ⅱ(2単位)、がん看護学実習3(2単位)、治療実習(4単位)、追加予定。</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	38単位の教育課程を施行し、より高度な看護実践能力を持つ専門看護師を養成する。また、小児から高齢者といったそれぞれの世代と在宅医療に対応できる専門看護師を養成する。						
指導体制	指導教官が指導し、各科目担当教官が成績評価を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	修了後、がん看護専門看護師のライセンスを取得し、入院患者・家族だけでなく、外来、通院患者など複雑な問題を抱える患者・家族へケアや情報を提供する。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学系研究科 大学院生	0	1	0	1	0	2
							0
							0

							0
	計	0	1	0	1	0	2

全人的医療を行う高度がん専門医療人養成

全人的医療を行うことができるがん専門医療人の育成

- 新ニーズに対応する専門知識の習得
- ライフステージに対応した医療の実践
- チーム医療の実践
- Whole Person Careの実践
- 緩和ケアの推進

多様な専門性

各種専門コースの設置
ゲノム医療・希少がん・小児がん・AYA世代がん・高齢者がん

キャリア教育・キャリア形成支援
専門資格の取得 (eポートフォリオによる支援)
リカレント教育 (CNSへの小児、高齢者・在宅看護分野追加教育と在宅看護師養成講座)

地域への貢献
市民公開講座
小中高生へのがん教育

多職種連携教育
医師、歯科医師、薬剤師、看護師、認定遺伝カウンセラー、放射線技師、医学物理士、管理栄養士

高度な連携性

チーム医療合同演習

海外先進施設、他拠点との連携

がん専門医養成コース

**大学院共通臨床腫瘍学
コアカリキュラム**
教員相互乗り入れ eラーニング 単位互換性

海外先進施設の講師による講演

全国がんプロ
eラーニングクラウド・
拠点間の講師相互派遣

患者会

講演会など

カリキュラム作成

中国・四国地域
がん診療連携拠点病院
地域医療在宅研修施設

意見交換

カリキュラム企画運営委員会

ゲノム医療	岡山・徳島
希少がん	愛媛・徳島
小児がん・AYA世代がん	岡山・川崎医科・高知
高齢者がん	香川・山口・岡山
がん看護専門看護師等のリカレント教育	高知県立・岡山

メディカルスタッフ
養成コース

評価

地域がん専門医療人養成
インテンシブコース

フィードバック

運営委員会
プログラム総合企画、構想立案
大学間連携の推進と調整
教育研修システム構築と評価

臨床治験推進委員会
臨床研究推進

広報委員会
ホームページ・季刊誌・
活動報告

総合評価委員会
外部評価委員会
内部評価委員会

連携病院長会議
がん拠点病院との連携推進策

グローバル人材育成

ミャンマー医療人
台湾医療人

国際交流、国際貢献

FD参加者による職員研修
職員対象講演会

指導者養成プログラム



多様な新ニーズに対応するコース作り